はじめに

平成23年3月11日に発生した東日本大震災は、我が国史上まれにみる広範囲にわたる激甚災害であり、国をあげてその復旧・復興をはかることが求められます。復旧・復興は、非常に長期にわたる事業であり、短期・中期・長期といったステージごとに様々な支援が必要となりました。

花やみどりの専門家である私たちは、花とみどりの有する「心のやすらぎやうるおい」などの効用を被災者に届けるため、緊急的な課題である生活環境の向上を目途とした支援活動を重点的に展開するとともに、各ステージに則した「花とみどり」に係わるプランの提案及び支援活動を展開するため、花とみどりにかかわる公益法人や業界関係者等で構成する東日本大震災「花とみどりの復興支援ネットワーク」を平成23年10月1日に設立しました。

なお、平成28年4月14日・16日に発生し、甚大なる被害をもたらした熊本地震の被災地域へも活動を拡げるため、平成28年9月にネットワークの名称を東日本大震災・熊本地震「花とみどりの復興支援ネットワーク」と変更しました。

東日本大震災・熊本地震「花とみどりの復興支援ネットワーク」事務局
一般社団法人日本公園緑地協会
公益財団法人日本花の会
一般財団法人日本花普及センター

目　　次

はじめに

東日本大震災・熊本地震「花とみどりの復興支援ネットワーク」概要について…… 1

　１. 活動内容

　２. 実施体制

　３. 活動方針

東日本大震災・熊本地震「花とみどりの復興支援ネットワーク」参加団体について…… 2

支援活動　平成 23 年度 …… 3

支援活動　平成 23、24 年度 …… 7

支援活動　平成 25 年度 …… 11

支援活動　平成 26 年度 …… 16

支援活動　平成 27 年度 …… 21

支援活動　平成 28 年度 …… 28

支援活動　平成 29 年度 …… 35

支援活動　平成 30 年度 …… 42

支援活動　平成 31（令和元）年度 …… 49

基金への寄付協力団体・個人一覧（累計）について …… 53

助成金支援団体一覧（累計）について …… 55

■東日本大震災・熊本地震「花とみどりの復興支援ネットワーク」概要について

１. 活動内容

各団体は、自らの団体の活動として復興支援活動を行い、その活動をネットワークに登録しました。

また、参加団体等と連携協力して、地方公共団体等の要請等を受け、いこいの広場等のプランの作成や、花とみどりの贈呈や支援金の提供並びに専門家の人材派遣などの人的支援を行いました。

２. 実施体制

事務局は、一般社団法人日本公園緑地協会、公益財団法人日本花の会、一般財団法人日本花普及センターの３団体が務め、花とみどりに係わる公益法人や業界関係者等に幅広く参加協力を呼びかけました。

（１）「Webサイト」及び「花とみどりの復興支援ネットワーク基金」の開設

1)Webサイトの開設

登録団体の活動状況及び支援内容や、地元自治体や団体などからの支援希望内容についてＷｅｂ(http://www.jfpc.or.jp/flag)で公開するとともに、支援金提供者リスト、花とみどりを活用した復興支援活動の募集並びに成果をＷｅｂで公開しました。

写真-1 Ｗｅｂサイト
（活動終了のため令和２年末に閉鎖）

2)「花とみどりの復興支援ネットワーク基金」の開設

事務局は、現地で支援を行う団体を助成するため「花とみどりの復興支援ネットワーク基金」を設立し、参加団体が主催・参加する花とみどりの各種イベントで企業、一般へ広く支援金の協力を呼びかけました。

３. 活動方針

短期、中期、長期的な活動方針

【短期：仮設住宅への支援】

公共団体等の要請等により、住民の方々の心身の健康維持と地域の絆が保たれ、より豊かな生活が過ごせることを願い、仮設住宅等に花とみどりのある環境整備プランの提案及び支援を行いました。

・プランターによる緑化

・屋内を飾る切り花や寄せ植え等の多様な花育活動の支援

・いこいの広場や花壇等の提供等

【中長期：まちに戻っての生活再建】

中長期的には地域の愛着を深め、まちの活気や活力を生み出すため、歴史や身近な自然など、地域の個性を活かしたまちの魅力づくりに資する花とみどりの創出・保全・再生プランの提案及び支援を行いました。

復興公園、○○の丘、○○の森、○○の街道等

■東日本大震災・熊本地震「花とみどりの復興支援ネットワーク」参加団体について

１．東日本大震災・熊本地震「花とみどりの復興支援ネットワーク」参加団体

参加団体は、以下の４１団体です。

(株)イーフローラ
(公社)園芸文化協会
(一財)大阪府公園協会
(一財)沖縄美ら島財団
(公財)神奈川県公園協会
(一財)公園財団
(公財)神戸市公園緑化協会
(公財)国際花と緑の博覧会記念協会
(株)サカタのタネ
(一社)JFTD
全国花育活動推進協議会
(一社)全国花卸協会
(公財)東京都公園協会
(公財)都市緑化機構
(公財)名古屋市みどりの協会
(公財)新潟県都市緑花センター
西多摩緊急災害協力会
(一社)日本インドア・グリーン協会
(一社)日本植木協会
(一社)日本運動施設建設業協会
(一社)日本花き卸売市場協会
(一社)日本花き生産協会
(公社)日本家庭園芸普及協会
(一社)日本公園施設業協会
(一社)日本公園緑地協会
(一社)日本生花商協会
(一社)日本造園組合連合会
(一社)日本造園建設業協会
(一財)日本造園修景協会
(公財)日本花の会
(一財)日本花普及センター
(一社)日本ハンキングバスケット協会
(一社)日本フローラルマーケティング協会
(一財)日本緑化センター
(一社)花の応援団
阪神造園建設業協同組合
(株)日比谷花壇
(公財)兵庫県園芸･公園協会
(一社)フラワーソサイエティー
(一社)プリザーブドフラワー全国協議会
(一社)ランドスケープコンサルタンツ協会
※五十音順

■支援活動　平成 23 年度

１. 参加団体の支援活動

（１）（財）国際花とみどりの博覧会協会

１）花とみどりの復興活動支援事業

花とみどりを活用した、プランター等の整備や栽培指導などの復興活動を対象に、活動支援金の助成を実施しました。

２）イベントでの支援金の呼びかけ

平成23年11月3日富山市で開催した「花と自然のフォーラム2011」において募金を呼びかけ、集まった支援金は花とみどりの復興支援ネットワーク基金に寄付されました。

写真-1　震災復興のﾒｯｾｰｼﾞ入りﾌﾗﾜｰｶｰﾍﾟｯﾄ

（２）（株）サカタのタネ

１）自社商品の売上げを基金へ寄付

「希望のタネをまこう！」プロジェクトとして花の絵袋の売上金の１％（第１回：平成23年6月1日～11月30日分）の義援金が「花とみどりの復興支援ネットワーク」に寄付されました。第２回目が平成23年12月1日～平成24年5月31日まで実施されました。

写真-2　サカタのタネのＨＰ

２）ヒマワリのタネの進呈

「ヒマワリのタネをまいて日本中で元気の花を咲かせてみませんか？」と題して、被災地やボランティア団体へヒマワリの種100袋を厳正なる審査のうえ進呈しました。

（３）（財）都市緑化機構の支援

１）被災地域の仮設住宅（公共団体）へプランター、花苗、土･肥料を提供

仮設住宅等で生活されている方々の支援を目的に、植物とプランターをセットで提供（宝くじ協会の協力による）。

七ヶ浜町、仙台市、香取市，八戸市、相馬市、桑折町、飯館村、国見町の計49ヶ所の仮設住宅に、2,710基のプランターと14,450ポットの花苗をお届けしました。うち9ヶ所の仮設住宅ではボランティアを募り、入居者の方々とともに植え付け作業を行いました。

写真-3　プランターへ花苗の植え付け

（４）（一社）日本運動施設建設業協会の支援

１）岩手県・宮城県・福島県内の小中学校等へサッカーボール等の贈呈及びサッカー教室の開催

平成23年4月27～29日及び5月11、12日に、宮城県仙台市を中心に、学校・教育委員会にサッカーボール等を贈呈しました。

また、サッカーチーム「ベガルタ仙台」の

ご協力により、仙台市荒浜小学校・同高砂中学校でサッカー教室を開催、ベガルタ仙台の奈良橋氏、平瀬氏に参加・ご指導頂きました。贈呈に対して、荒浜小学校より感謝状を頂き、岩手県・福島県の新聞に、贈呈の模様が掲載されました。

写真-4　サッカー教室の開催

（５）（公社）日本家庭園芸普及協会の支援

１）被災地の仮設住宅等へ花苗のセットを提供

5月から9月の間に、被災地の仮設住宅・学校・幼稚園・保育園・病院・福祉施設等へ花の苗・プランター・培養土等を、23箇所の地域に2,610セットを提供しました。

地元の方と一緒に現地で植え込みを行い、協会の認定する「グリーンアドバイザー」による育て方のアドバイスや園芸相談なども行いました。さらに、春にも花を楽しんでもらうため、それぞれの届け先に秋植え球根も届けました。

写真-5　グリーンアドバイザーによる園芸教室

（６）（一社）日本公園緑地協会の支援活動

１）宮城県石巻市内の仮設住宅のある公園へ花苗の贈呈

平成23年7月7日に宮城県石巻市内の公園内に建設された仮設住宅（蛇田団地南公園、袋谷地東公園、水押公園）に、花苗500株（ベコニア、マリーゴールド、ニチニチソウ、サルビア、デルフィニュム）を贈呈しました。

震災前から公園の管理をしていた公園愛護会の会員のみなさんに、仮設住宅の住民と花の管理を一緒に行うことで交流を図ってもらうため、彩りのきれいな花の苗を植えて頂きました。

写真-6　花苗をプランターへ植える

写真-7　花苗を花壇に植える

２）宮城県仙台市のグループホーム型仮設住宅へいこいの広場の贈呈

平成23年10月には、宮城県仙台市のあすと長町26街区のグループホーム型仮設住宅（福祉住宅）にいこいの広場を整備しました。

七郷や荒浜の暮らしの原点といえるイグネ（居久根）が家のまわりを囲み、防風を兼ね、ケヤキやスギ、または桐、クリ、グミ等、農家の生活の一部として先祖より伝えて

きた思いを生活観のある樹木を取り入れて、花壇に再現し、自然の森に近い植栽を行いました。

（※宮城県などでは屋敷の周囲を取り囲むように植えられた樹木（屋敷林）を居久根（いぐね）と呼んでいます。）

なお、ベンチは(社)日本公園施設業協会からの寄贈です。住民の方の以下のような様子が聞こえています。

・ベンチに座り、暖かいところで皆でおしゃべりできて、とても良いと喜ばれている。

・入居者の憩いの場になり、午前も午後も利用が絶えない。

・天気の良い日は花に水をかけていてとても楽しそう。

写真-8　いこいの広場の全景

写真-9　住民の方がくつろいでいる

3）日比谷公園ガーデニングショー2011での募金活動

平成23年10月22日から10月30日に開催された「日比谷公園ガーデニングショー2011」で募金活動をしました。

（7）(公社)日本造園学会、(一社)日本造園建設業協会、(財)日本緑化センターの支援活動

1）高田松原の「希望の松」の後継樹育成支援

大津波により高田松原は消滅し、陸前高田市には甚大な被害がもたらされましたが、奇跡的に生き残った「希望の松」の樹勢調査・存続にむけて接ぎ木および実生による後継樹の育成が成功しました。一旦は回復の兆しが見られた「希望の松」でありましたが、衰弱してしまったため、今後は後継樹が海岸林を再生する時の主要な地域固有の種となることが期待されました。

写真-10　奇跡的に生き残った「希望の松」

（8）(公財)日本花の会の支援活動

宮城県女川町の津波で甚大な被害に遭いつつも開花したソメイヨシノの治療・保護・育成に取組みました。また、宮城県名取市で震災の被害を乗り越えたサクラの苗木の後継樹育成協力を行っています。なお、毎年1万本の桜（1年生の苗木）を被災地に無償で5年間提供します。

1）女川町のソメイヨシノの保全支援

津波で甚大な被害に遭いつつも開花したソメイヨシノを守りたいという地元住民からの依頼を受け、その保全に取組んでいます。

平成23年5月18日に損傷部の整理と塩分除去、土壌の塩分希釈、踏圧や乾燥防止のマルチング、幹焼け防止の幹巻などの応急処置を施した。以降、地元にできた桜守りの会から経過を観察、報告してもらいました。

7月11日には、数本の芽吹きを確認し、9月30日に夏越しした芽を接ぎ木し、後継樹の育成を行いました。

写真-11　被害を乗り越えたソメイヨシノ

写真-12　ソメイヨシノの新芽

２）名取市のソメイヨシノ後継樹育成支援

なとり観光プロジェクト実行委員会（宮城県名取市）が行う、ソメイヨシノの後継樹育成協力へ支援しました。震災の被害を乗り越えたサクラを用いて新たな桜の名所をつくる復興計画の相談を受け、閖上（ゆりあげ）小学校や閖上中学校の桜を用いた3,000本の苗木の増殖に取組みました。

平成23年9月7日に閖上地区において穂木を採取し、9月9日に日本花の会結城農場内にて接木を実施しました。

11月には1m以上の苗木になるように農場で育成管理を進め、今後、復興計画の進展に合わせて、この苗木からさらに苗木を増殖していく予定にしました。

写真-13　震災後花を咲かせた閖上中学校の桜

写真-14　花の会の農場での苗木の接ぎ木作業

■支援活動　平成 23、24 年度

１．参加団体の支援活動

（１）（公財）国際花と緑の博覧会記念協会

平成 23 年度より当ネットワークと連携し、「花とみどりの復興活動支援事業」として、花とみどりを活用した復興活動実施者に対し支援を行いました。

主な支援団体の活動

１）女川桜守りの会

活動場所：宮城県牡鹿群女川町女川多目的運動場仮設住宅

活動内容：津波到達線に沿って桜を植栽しています。仮設住宅や仮設店舗周囲で、桜の苗木 100 本を鉢植えしました。将来的には、住民とボランティアで植栽し、管理体制や町の人たちの意識統一を徐々に図りながら、女川町を桜の名所にと考えています。

写真-1　桜の苗木を鉢植え

２）桜ｏｎ三陸プロジェクト

活動場所：石巻市牡鹿町大谷川地区　仮設住宅に隣接する土地

活動内容：地元住民や行政関係者、ボランティアなどで、桜を植樹し、地元の住民の憩いの場を創成しました。（公財）日本花の会より植樹の指導を受けました。

写真-2　未来の桜の森の前で記念撮影

３）ＮＰＯ法人地域の芽生え 21

活動場所：七ケ浜町和光幼稚園、多賀城駐屯地、臨界鉄道株式会社

活動内容：大震災より一年の節目に慰霊・鎮魂・誓い・再出発の意味合いで宮城県内各所にサクラの苗木を植樹し、各施設管理者及び地元ボランティア団体との十分な調整を図りながら、災害ボランティアとしてこれらを行いました。

植樹場所：①七ヶ浜町幼稚園に 10 本②七ヶ浜町幼稚園周辺に 10 本③多賀城市東洋刃物株式会社敷地に 10 本④多賀城市多賀城駐屯地に 100 本⑤仙台市仙台臨界鉄道敷地に 10 本⑥松島町国定公園内に 100 本

写真-3　ボランティアと一緒に植樹

４）ＮＰＯ法人花と緑あふれる日本のまちづくり協会

活動場所・内容：西宮市公園ボランティアグループが復興活動支援として、ゴーヤ、キュ

ウリ、レタス等の播種・育成管理、剪定枝を活用したオリジナル培養土づくりなどを行いました。公園で培った知識・技術を活かし、播種から育成した野菜（ゴーヤ・ミニキュウリ・レタスなど）の植え付けと緑のカーテンの設置、また寄せ植え等を仮設住宅（宮城県女川町）で実施し、地元のみなさんと交流を図り、大いに喜んでもらえました。

小乗・向地区では、仮設入居者と支援者と共同で緑のカーテンの組み立てを行い、ミニキュウリ、レタスの植え付けを行いました。

新田・清水地区では、参加者による彩玉づくりや、花の寄せ植え、キュウリ・レタス・ミニトマトの植え付けを行いました。

写真-4　野菜の植え付け

（２）事務局

緑化フェアにて募金の呼びかけしました。

写真-5　募金の呼びかけ

（３）第 29 回全国都市緑化フェアＴＯＫＹＯ実行委員会

平成 24 年 9 月 29 日から 10 月 28 日の 30 日間開催された、第 29 回全国都市緑化フェア TOKYO の会場で使用されていた資材のうち、井の頭恩賜公園会場のアーチ、上野恩賜公園会場の立体コンテナ植栽を仙台市宮城野区内の仮設住宅全 7 箇所へ寄贈しました。

写真-6　コンテナ植栽を仮設住宅へ寄贈

（４）（一社）日本造園建設業協会

当ネットワークの助成を受けた福島県支部と宮城県支部の活動をそれぞれ支援しました。

１）日本造園建設業協会福島県支部

未だ全村避難を余儀なくされている飯舘村の仮設小学校及び幼稚園に対し、みどり美しいふるさと再生へのささやかな第一歩として花壇や樹木による緑化支援を行いました。

写真-7　飯舘村の幼稚園での花壇作り

写真-8　飯舘村の小学校へ花壇の寄贈

２）日本造園建設業協会宮城県支部

仙台市太白区のあすと長町仮設住宅で避難生活を送る被災者の皆さんに「安らぎとうるおい」を感じて頂きたいと言う思いから、仮設住宅の中央広場に住民のみなさんのご意見を頂き、花壇やパーゴラなどで「憩いの場」を整備しました。

この中央広場は、掲示板による情報発信、各種イベントを開催する場所として、また、花やみどりを通じて被災者の方々の絆を深める重要な拠点となっています。

写真-9　憩いの場

写真-10　住民の皆さんと花苗などの植樹

（５）（公財）日本花の会

震災を乗り越えて生き残った桜を“思い出桜”と称し、その保護や後継樹の育成に取り組みました。宮城県女川町では、保護を行なっていた人々に希望を与えた２本の『ソメイヨシノ』が枯れてしまいましたが、応急処置の甲斐あって夏に新たな枝が伸びてきました。現在、この枝を接ぎ木して後継樹の育成に取り組んでいます。また、被災した地域を対象として、年間１万本の震災復興支援用の桜の苗木を５年間無償で提供します。

写真-11　桜の苗木の提供

２.基金の助成金による支援活動

（１）希望の花いわて 3.11 プロジェクト

花きの生産・流通・販売関係、造園施工関係、装飾デザイン関係等の花に携わる方々が、同じ「いわて」に生きる人間として、花と緑で被災地を支援すべく行動を起こしたボランティア団体で、岩手県沿岸の被災地域を対象として、住民の方々のニーズを最大限に尊重しながら、活動を行っています。

陸前高田メモリーフラワーロードの、花壇への花苗の植え込み及び種まきと、大槌町や小槌仮設団地のコミュニティーガーデン等を、県内外のボランティアと住民の方々が共同で整備しました。また、大船渡保育園等での花育活動も行っています。

写真-12 メモリーフラワーロードの花壇整備

写真-13 小槌仮設団地のコミュニティーガーデン

（２）花と緑の力で 3.11 プロジェクトみやぎ実行委員会

生産関係、宮城県花卉商業協同組合、(社)宮城県造園建設業協会、日本ハンギングバスケットマスター宮城支部、オープンガーデンみやぎ、その他民間有志団体等が協力して結成されたボンティア団体であります。

被災地が復興するには長い年月が必要になりますが、そこに暮らす人々ができるだけ早く花と緑のある生活を取り戻すことができるよう、継続的な支援を行うことを目的として活動しています。会員のボランティアと住民の方々が共同で、仮設住宅に花壇と住民が農作業にいそしむ畑を作り、楽しむ場所となる「みんなの花壇及びみんなの畑プロジェクト」に取り組み、整備しました。また、伊達の時代より水田が広がり、“居久根”に囲まれた農家の姿と貞山堀が原風景である、石巻及び仙台湾沿岸部、名取市まで続く“居久根”に植えてある生活観のある樹木を取り入れた自然を復元する活動も行っています。

写真-14 扇町 1 丁目公園仮設住宅「みんなの花壇」

写真-15 扇町 4 丁目公園仮設住宅
「みんなのﾍﾞｼﾞﾀﾌﾞﾙｶﾞｰﾃﾞﾝ」

（３）宮古中央通りに緑を復活させる会

商店街の有志等が中心になり、震災復興のために市民自らが復興の手助けをすることにより、宮古という郷土に愛着を持ち続けて欲しいと願い、活動を行っています。

宮古中央通りを市民の手で植樹し復興・再生の息吹とするため、「宮古中央通りの花かおる散策の路事業」を2ヵ年計画、市民参加で取り組んでいます。

写真-16 街路樹復活のため商店街に植樹

写真-17　フラワーロードに掲げられたプレート

■支援活動　平成 25 年度

１．基金からの助成金による支援活動

（１）女川桜守の会

１）桜守りの会苗畑に大漁桜移植

桜守りの会の苗畑に大漁桜を50本新規に移植しました。また、昨年から育てている100本の苗を一旦、ポットのまま苗畑に地植えし管理しています。

町内は未だ被災後の造成工事が進まず、町内各所に直接植栽ができない状態が続いているため、一旦きぼうの鐘商店街内の桜守りの会苗畑にポットに入れたまま地植えし管理されています。その一部は仮設商店街や仮設住宅に貸し出しています。

最近商店街にシカが出没し苗の食害が発生しており、対策に取り組んでいます。

写真-1　苗木ポット植栽

写真-2　ポット植栽完了

写真-3　ポットを苗畑に地植え

２）アジサイ苗育成

桜と共に植栽すると良いと言われるアジサイの苗を、将来の桜地植えの際に一緒に植栽できるよう今から育成するため、ポットに100株を植えました。

３）桜公園第１号の造成

町の北部、日蔵という場所でスギの伐採跡地を桜公園として整備するため、刈り払い除草と整地を行い、桜35本を植栽しました。併せて、ペットボトルを用いてシカ対策を行いました。

現在は仮設住宅の住民の散歩道となって、皆さん桜が咲くのを心待ちにして下さっています。また管理面でも、何か異常があればすぐに桜守りの会に連絡を下さり、非常に助かっています。町民の憩いの場としてご利用いただいています。

（２）希望の花いわて 3.11 プロジェクト

１）国道 45 号線の緑化整備

岩手県陸前高田市、大槌町での陸前高田フラワーロード等を中心とした国道 45 号線の緑化整備を行いました。花壇への花苗植え込み及び種まき、除草などのメンテナンス作業を行いました。

写真-4　陸前高田フラワーロード植栽

写真-5　陸前高田フラワーロード手入れ

写真-6　集合写真

写真-7　咲きそろったチューリップ

２）大槌町来小槌仮設団地内の花壇整備

大槌コミュニティガーデン等においてワークショップや園芸教室の開催、花壇・植え込みのメンテナンス作業を行いました。

写真-8　作業の様子

写真-9　作業の様子

写真-10　コミュニティガーデンの開花

３）大船渡市大船渡保育園での花育活動

「花育活動」として、園児たちと花の苗をプランターに植え込む作業を行いました。

写真-11　園児によるプランターづくり

写真-12　園児からの感謝状

（３）ＮＰＯ法人地域の芽生え２１

１）宮城県松島町における桜の植栽

松島町において町民とボランティアが協力し植え穴掘りから植栽まで協働で行いました。

写真-13 松島町桜植栽の様子

写真-14　集合写真

２）石巻市の大川小学校に花壇作成

大川小学校で花壇や近隣の植栽のほか、慰霊碑周囲への花の植栽も行いました。

写真-15 大川小学校近くの菜の花と忘れな草

（４）花と緑の力で 3.11 プロジェクトみやぎ委員会

今年度は、仮設住宅や集会所に花壇を作る「みんなの花壇プロジェクト」と、津波で流失した屋敷林や鎮守の森、社寺林の再生をめざし植栽活動をする「居久根プロジェクト」、継続活動のバラ園整備「ローズファクトリーガーデンプロジェクト」を行いました。

花壇整備には花苗、ポット、客土をセットで配布し、植栽しました。

居久根整備には、屋敷林の骨格となる樹種（ヒバ、スギ、クロマツ等）落葉樹、果樹、客土等を配布し、神社ではご神木となる樹木も配布しました。津波被害地では、表土流失や高い塩分濃度のため、客土や土壌改良材によって植栽地を整えた。早く緑や花の咲く地域にし、住民や若者の帰還を促したいとの思いも込められています。

写真-16　若林区笹屋敷地区　集合写真

写真-17　ポットの植え替え作業

（５）花の力プロジェクト「希望の庭」再生プロジェクト

陸前高田市において津波被害で自宅とオープンガーデンを失ってしまった方がおり、その再生を支援しました。元はご自宅のあった土地に、重機による地盤掘り起こしと土壌改良を行うことでコンクリートのような地盤を蘇らせ、東京と地元のボランティアが協力して「希望の庭」を再生させました。

写真-18　希望の庭

写真-19　上空から見たところ

（６）東日本に花を咲かせ隊

公園管理運営士会が中心となり、「東日本に花を咲かせ隊」として活動しています。

今年度、仮設住宅や公共施設の花壇等への球根の寄付・植栽支援を行いました。

球根は、国営昭和記念公園、国営滝野すずらん公園の２つの公園から提供を受けました。国営昭和記念公園では関係者、来園者等を含めて700人が集いチューリップとムスカリの球根124,000球を堀上げました。

また、国営滝野すずらん公園でも市民の協力を得てチューリップとムスカリの球 9,000 球を堀上げ、球根は合わせて 133,000 球となりました。

乾燥・養生の後、青森県十和田市、岩手県陸前高田市、奥州市、及び宮城県仙台市、気仙沼市、岩沼市、東松島市、千葉県浦安市の被災地や仮設住宅及び被災者の避難先に配送し、現地での植え付け指導等、植栽支援を行い植栽後は、プレートを設置しました。

写真-20　宮城県岩沼市玉浦小学校

写真-21　仙台市あすと長町仮設住宅

写真-22　浦安市明海地区

（７）ふくしま希望の種プロジェクト

郡山駅前大通り商店街において、避難中の障がい者の方と一緒に寄せ植えを制作し、プレゼントしました。また、プロジェクトメンバーが施設前に花壇を制作し、駅前大通りの花壇・プランター植栽、親子寄せ植え教室、郡山駅前のフラワーショウを行いました。

写真-23　寄せ植え作業

写真-24　フラワーショウ会場風景

■支援活動　平成 26 年度

1. 基金からの助成金による支援活動

（1）ＮＰＯ法人Ｇｒｅｅｎ　Ｆｉｅｌｄｓ

1）陸前高田市の国道 45 号線沿いフラワーロードの植栽

岩手県陸前高田フラワーロードにおいて、専門家の指導を受けながら植栽手入れなどを行いました。サルビア、キンセンカ、宿根草などカラフルな花が咲き、国道沿いはとても華やかに彩られました。

写真-1
フラワーロード
植栽作業の様子

写真-2
フラワーロード
管理作業の様子

写真-3
フラワーロード
植栽後開花状況

2）保育園での植栽活動

岩手県大船渡保育園にて、子ども達と一緒に花のプランターを作成しました。その際、岩手県の国体推進室からマスコットキャラクターが来園し、子どもたちも喜んでいました。

写真-4
子ども達と
プランターに
花苗寄せ植え

写真-5　国体キャラクターと記念撮影

3）小槌仮設団地ワークショップ開催

岩手県大槌町にある小槌仮設団地の「小槌コミュニティガーデン」にて、花苗を使ったワークショップを行いました。

パンジーなどを用いて参加者の皆さんと寄せ植えを作成しました。

写真-6
参加者の皆さんで
記念撮影

（2）ＮＰＯ法人社叢学会

岩手県山田町の大杉神社へ桜を祈念植樹しました。この神社は津波で大きな被害に遭い、高台に社殿が再建されました。社叢（しゃそう：神社の森）の復興を通じて地域コミュニティの復興につなげることを祈念し、「復興祈念植樹祭」として社叢の第一歩となるオオヤマザクラを地元住民の方と社叢学会会員で一緒に植樹しました。

写真-7
植樹した
オオヤマザクラ

写真-8
植樹の様子

写真-9
植樹後
記念撮影

（３）ＮＰＯ法人勿来まちづくりサポートセンター

福島県いわき市勿来地区に建設される防災緑地に植栽する苗木作りを行いました。

防潮堤を超える津波が来た場合に備えて、防災緑地に樹木による減災機能を持たせることが計画されました。防災緑地の海側にはクロマツの植栽が予定されていますが、内側には生態系と環境保全の観点から郷土種の広葉樹を植栽することとし、地元の森で苗木とドングリを採取し育苗しています。苗が根付いたら小学生に里親として育ててもらい、防災緑地完成後に記念植樹する予定です。

民間企業や自治体、市内中学校の美術部、関東の大学等と協力して活動しています。

写真-10
苗木、ドングリ
の採取の様子

写真-11
採取した苗の確認

写真-12
苗木をポットに
植栽

（４）（一社）日本ハンギングバスケット協会

１）子ども達の花育活動

福島県に住む子ども達を対象に「ちびっこ寄せ植え教室」を行いました。参加人数が当初計画より多くなってしまい、急きょ定員を増やしました。低学年から高学年まで幅広い年齢の子が興味津々で取り組み、花の名前や育て方にも興味を示してくれました。

学校や家庭で花や土と触れ合う機会が少ないようで、付き添いの父兄の方からも好評を頂き、親御さん自身も参加したいというお声を頂きました。

写真-13
ちびっこ
寄せ植え教室

２）郡山市の仮設住宅集会所・花壇の植栽

冬に入り寒くなると、今まで設置してあっ

たプランターの花が終わり、花材選びも難しくなり集会所前が寂しくなるのではと考え、集会所前に「お正月の寄せ植えとバスケット」をテーマに耐寒性のある明るい色の花でハンギングバスケットとスタンドバスケットを作成しました。こういったタイプの空中を飾るバスケットがこの地域ではまだ少なく、インパクトがあったようです。通りがかる人が足を止め綺麗だと喜んで下さいました。

また、仮設住宅に以前からあった花壇の苗が霜の影響で枯れてしまい、そのままにするのは勿体ないと考えパンジー、スイセン、チューリップ、宿根草と、県外の方から寄付頂いたバラの苗を植栽しました。住民の方がよく手入れをして下さっています。

写真-14
ハンギングバスケット・スタンドバスケット植栽

写真-15
植え替え後の花壇

（５）花と緑の力で 3.11 プロジェクトみやぎ委員会

１）大川地区慰霊碑まわり植栽及び花壇設置支援

宮城県石巻市大川地区の慰霊碑のまわりにスイセン、アジサイを植栽しました。また、最上石の石組み花壇を作成・設置し、ビオラを植栽しました。

２）長面浦番屋　花壇作成

石巻・長面浦の漁師たちが地域再生の拠点として建設した「長面浦海人の家 はまなす Café」建物の隣に最上石の石組み花壇を作成・設置しました。花壇にはシャリンバイ、シバザクラ、ラベンダー、ハマギク等を植栽しました。

３）東六郷公園植栽活動

「みんなで植えよう東六郷公園」と題して、仙台市若林区の東六郷公園に花木の植栽を行いました。地元住民の方や子ども達も参加し、23 種類の樹木、苗等を植えました。

（６）ふくしま園芸療法研究会

１）福祉施設コミュニティ花壇植栽

福島県内の 2 か所の障がい者福祉施設において花壇の植え替えをしました。どちらの施設でも皆さんが植え替えを心待ちにしていて下さり、季節に合わせたさまざまな花苗を植栽しました。

写真-16
花壇植え替え

写真-17
パンジー植え付け

２）福祉施設でのアレンジメント教室

春まで楽しめるパンジーと春から楽しめるチューリップで鉢植え作り、ハロウィン用の飾りで飾りつけをしました。また、多肉植物や小さい家、動物の人形を使って箱庭を作り、2 つを自分達の施設に残して、4 つを他の障がい者施設にプレゼントしました。

写真-18
鉢植え作り

写真-19
完成品と
記念撮影

3）三春町中妻仮設住宅での箱庭作成

葛尾村から避難されている方が入居している仮設住宅で、箱庭作りを行いました。

色のついた細かい石や多肉植物、小さなベンチ・家などを並べ、同じ材料で色々な箱庭が出来上がりました。活動日が台風の影響で延期になっていたため、皆さん当日をとても楽しみにしていらっしゃったそうです

写真-20
箱庭作り

写真-21
完成した箱庭と
記念撮影

（7）ふくしまONE　LEAF

1）オープンガーデンの開催

福島県郡山市、須賀川市の個人邸 4 軒の庭をオーナーがオープンガーデンとして公開し、約 150 人の方が見学にお越しになりました。制作したパンフレットが不足するほど好評で、遠くは横浜からという方もいらっしゃいました。震災後、まだ土に触ることに抵抗を覚えるという方もおり、見学して頂きながら庭や花の話をする事で、ガーデニング好きでありながら手を出すことに躊躇している方にも楽しんで頂けたのではと感じました。

写真-22
オープンガーデン
の様子

写真-23
オープンガーデン 1
「石井ガーデン」

写真-24
オープンガーデン 2
「中村ガーデン」

写真-25
オープンガーデン 3
「廣長ガーデン」

写真-26
オープンガーデン 4
「蛇石ガーデン」

2）仮設住宅休憩所花壇作成

郡山南一丁目仮設住宅にて、休憩所に可動式の花壇を設置しました。すると、住民の方

がやり方を教えてくれれば手入れをする、とお申し出がありました。花がら摘みと水やりをお願いしたところ、メンテナンスに行った際、とても良く手入れをして頂いている状態で、非常に花期が長くなりました。家にこもりがちな方々に外に出て安心して土に触れて頂くことが目的の一つであったため、良い結果になっていると思いました。

また高齢者サポート施設前にコスモス等の寄せ植えを作成し、とても喜んで頂きました。

写真-27
仮設住宅に作成した花壇

写真-28
作成した寄せ植え

3）仮設住宅アレンジ教室・寄せ植え教室

11 月 6 日を「フラワーデー」と名付け、仮設住宅住民の方に１日中花を楽しんで頂こうと午前中にフラワーアレンジメント、午後は寄せ植え教室を行いました。たくさんの方がご参加くださり、喜んで頂きました。

写真-29
アレンジメント教室　記念撮影

写真-30
寄せ植え教室
記念撮影

（８）ＮＰＯ法人冒険遊び場せんだい・みやぎネットワーク

仙台市若林区にある農家の居久根再生事業を行いました。居久根を形成していたスギが津波のため 100 本以上が枯れて伐採され、地盤沈下や伐採時の掘起こし等で土が減少した状態になっていました。復活の第一歩として専門家に植栽地の土壌診断と屋敷林の実生樹種実態調査を依頼しました。現状を再確認し、地質調査の結果や樹種選定・種取り、植栽等の段取りを検証しています。

写真-31　居久根の調査の様子

■支援活動　平成 27 年度

１.基金からの助成金による支援活動

（１）ＮＰＯ法人Ｇｒｅｅｎ　Ｆｉｅｌｄｓ

１）大船渡保育園での花育活動

震災以降、年２回の割合で支援している岩手県大船渡市の大船渡保育園でのプランター植栽による花育活動を行いました。

２）大槌町安渡保育園での花育活動

岩手県大槌町の大槌保育園安渡保育所でのプランター植栽による花育活動を行いました。

３）大槌町仮設団地における寄せ植え教室

大槌町の小槌第 21 仮設団地と浪板仮設団地において、寄せ植えづくりの教室を行いました。小槌仮設団地では、球根とビオラの寄せ植えと多肉植物の寄せ植え作りを行いました。浪板仮設団地では、多肉植物をメインとした寄せ植えを作成しました。

写真-1　小槌仮設団地の寄せ植え教室

４）フラワーロード陸前高田の管理

陸前高田市の国道45号線フラワーロード陸前高田では、毎年地域の皆さんと花の植え替えや除草等、管理を続けています。平成28年開催の「いわて国体」へのおもてなし花壇として住民の気運を高めるためという目的も併せて花壇整備を行いました。

（２）ＮＰＯ法人勿来まちづくりサポートセンター

福島県いわき市岩間町津波被災地に建設される防潮堤の防災緑地に植栽する苗木作りを行っています。防潮堤を超える津波が来た場合に備えて、防災緑地に樹木による減災機能を持たせることが計画されています。

防災緑地の海側にはクロマツを植栽し、内側には生態系と環境保全の観点から郷土種の広葉樹を育苗し植栽する予定です。

１）郷土種苗木の採取

樹木医と一緒に岩間町を歩きながら、事前に決めておいた場所（岩間椙取神社、那智神社）に自生する幼苗やドングリを採取するイベント「ドングリ＆苗木採取ウォーク」を開催しました。

また、その際、岩間町の高台移転地や復興の現状を合わせて見て回り、震災のその後について考える機会を持つことも目的としました。

採取した苗は防災緑地や公園に植栽できるようになるまで近隣小学校で管理していただくとともに、里親になって下さる方に配布し2～3 年の間育ててもらうことを検討しています。

写真-2　苗木採取イベント打ち合わせの様子

写真-3　樹木医による解説・説明

写真-4　苗木・ドングリ採取の様子

写真-5　ﾄﾞﾝｸﾞﾘ＆苗木採取ｳｫｰｸ参加者集合写真

写真-6　ドングリ里親プロジェクト贈呈式

２）育成中の苗の管理

昨年度までにすでに採取し、育成を始めている苗の管理も行っています。6 月には昨年のドングリの苗木の移植（ポット上げ）、11 月にはポットの掃除などを行いました。今後も引き続き活動を続けていきます。

写真-7　昨年の苗木の移植

写真-8　昨年の苗木の移植・そうじ

写真-9　苗木と一緒に集合写真

（３）（一社）日本ハンギングバスケット協会福島支部

１）あさかの杜ゆふね（川内村役場出張所）植栽作成

冬から春にかけての花壇にするため、耐寒性の強い葉ボタンとパンジー、ベゴニアを使いプランターとスタンド式ハンギングバスケットを作成しました。仮設住宅のスタッフの方が管理を上手にして下さり、1 年たっても元気に育っていました。また、予算を分けてクリスマス用の寄せ植えも制作しました。風で転倒しないよう、重量のある鉢に樹高が低めのモミの木を選びました。

写真-10　寄せ植え

写真-11 クリスマス寄せ植え

２）仮設住宅花壇・植え込み作成

郡山市内の仮設住宅駐車場横に設置された花壇の植え替えと土壌のメンテナンスをしました。秋植えのため、耐寒性のあるものや、春に咲くチューリップなど工夫して植栽しボリュームを出しました。

写真-12　冬でも華やかになるよう工夫した花壇

３）子どもたちへの花育活動

①福島県郡山市

郡山市 21 世紀記念公園麓山の杜「とんがりふれあい館」において子どもを対象とした花育活動を行いました。親子参加の方、お孫さんとご参加の方など、大人と子供が一緒に楽しめる寄せ植え教室でした。

写真-13　集合写真

②福島県田村郡三春町

三春町にある三春第一保育所において、年長児を対象にした花育活動を行いました。

植栽内容は、春まで楽しめる球根を使った寄せ植えです。5 歳児が 17 人という事で、飽きないよう所要時間を短くしたり、作業をスムーズにするため土を入れる量のラインを鉢にマジックで書いたり、苗を選ぶ順番・数・色など細かく決めました。そのために、事前に打ち合わせを重ね準備を行いました。講師が 2 人で不安もありましたが、保育士さんが手伝ってくださり、子ども達もきちんと行動してくれたので上手に寄せ植えが出来、楽しい時間を過ごすことができました。寄せ植えは「みんなで上手に育てて来春の卒園式に飾りたい」と先生からお話を伺いました。

写真-14　先生とみんなで集合写真

（４）花と緑の力で 3.11 プロジェクトみやぎ委員会

宮城県仙台市宮城野区久保野地区における「久保野キッズアグリガーデン」の整備工事と植栽を行いました。

子供たちの笑い声が響く小さな秘密の農園を作ろうというコンセプトで始まった作業で、畑エリアは野菜やハーブ、ガーデン外周は果樹中心に植栽しました。使用した球根は、東日本に花を咲かせ隊、苗木は、JA 横浜農業協同組合植木部、工事・植栽作業は、宮城県造園建設業協会宮城野分会にご協力頂きました。今後も整備や管理を続け、子供たちが楽

しみながら草花や木々に気軽に触れられる場所作りを進めて行きたいと考えています。

写真-15　久保野キッズアグリガーデン種まき中

写真-16　久保野キッズアグリガーデン集合写真

（５）東日本に花を咲かせ隊

国営公園でのチューリップ、ムスカリ等の球根掘り上げ作業に協力し、増えた球根（球根の子球）の余剰分を譲り受け被災地に届けて植栽支援を行っています。

１）球根掘り取り

第１回掘り取りは、平成 27 年 6 月、国営昭和記念公園にてチューリップ 2,000 球、ムスカリ 3,000 球を東日本に花を咲かせ隊員と、保育園児、公園来園者の市民等約 40 人で掘り上げました。

写真-17　昭和記念公園・球根掘り取り

第２回掘り取りは、同月に国営滝野すずらん公園にてチューリップ 18,000 球を市民、企業応援隊、公園管理運営士会北海道支部会員の延べ 1,249 人で掘り上げました。

写真-18　滝野すずらん公園・球根掘り取り

２）配送、ふるい分け

同年９月に、滝野すずらん公園で掘り上げ後、乾燥させていた球根のふるい分け作業と配送を公園管理運営士会北海道支部会員で行いました。掘り上げた 18,000 球のうち、腐敗や侵菌物、傷物や成長不良等植栽に不向きな球根を除いた 7,000 球を被災地へ配送しました。また、10 月には昭和記念公園で掘り上げた後乾燥させていた球根のふるい分け作業と配送を東日本に花を咲かせ隊員で行いました。こちらも植栽に不向きな球根を除き、チューリップ 25,000 球、ムスカリ 20,000 球を被災地に配送しました。今年度の配送先は、岩手県、宮城県内の 12 箇所です。

写真-19　球根ふるい分け

３）植え付けの支援

今年度は、名取市閖上無料休憩所花壇、岩沼市千年希望の丘公園、仙台市久保野地区の久保野キッズアグリファーム公園等にて、地域の方と隊員が一緒に植え付けを行うとともに、植栽指導を行いました。

写真-20　名取市閖上無料休憩所花壇

写真-21　岩沼市二の倉 千年希望の丘公園

また、久保野キッズアグリファーム公園は、地元の復興イベント開催日に合わせて行い、たくさんの方に参加して頂きました。

写真-22　久保野キッズアグリファーム
配送されたチューリップの球根

写真-23　花壇へ球根と花苗の植え込み

写真-24　久保野地区の皆さんと記念撮影

（6）ふくしまONE　LEAF

郡山南一丁目応急仮設住宅の各所において活動を行いました。

1）アレンジ教室（リース作成）

仮設住宅内高齢者サポート施設で行いました。例年の活動では、生花のアレンジメントを作成していましたが、今年は毎年使えるアーティフィシャルフラワー（高級造花）でクリスマスリースを作成しました。

グルーポッド（電源に接続した容器の中にグルーガン糊を溶かし、大人数で使えるようにするもの）を使用して思い思いに花を貼る作業は、高齢者が多い場合には、ワイヤー等で留めつける細かい作業が困難なため、有効だと思いました。キラキラとしたものが家にあると気分が向上すると思い選んだ材料でしたが、やさしい色づかいで、クリスマスが終わっても飾っておけると好評でした。

今回も男性の参加があり、和気あいあいとしたワークショップとなりました。

写真-25　作品を手に集合写真

2）オープンガーデンの開催

今回は 2 日間の開催となり、今までと比べ

て短い期間でしたが、来場者数は大きく変わりませんでした。楽しみにして都合をつけて下さる方が多いのだという印象を受けました。

昨年はパンフレットが非常に好評で冊数が不足したため、今年は外部発注で 400 部用意しましたが、そのほとんどが無くなった状態でした。今後もこの部数が必要であれば、今回同様に外部発注をした方が安くなるため、方法を検討しています。

また、来年度はワークショップも同時開催をして、さらに内容を充実させたいと計画しています。来場者も毎年来訪してくださる方も多くなり、オープンガーデンという行事が定着してきていると思われるので、今後も文化活動として、また、地域の交流の場として続けていきたいと思っています。

平成 27 年は「ふくしまディスティネーションキャンペーン」本番の年のため、「ONE LEAF」として参加登録し、オープンガーデンの花でおもてなし・あいさつでおもてなし等に取り組みました。

写真-26　オープンガーデンに来訪の皆様

写真-27　ガーデンを楽しんでいただく

3）寄せ植え教室

仮設住宅奥憩いの広場において、寄せ植え教室を行いました。開催を楽しみに待っていて下さった方が多く、募集を上回る人数の申し込みがあり急きょ全員ご参加いただけるよう変更し開催しました。

屋外での活動でしたが、天候も良く気温も低くなかった事や、参加者の方々の手際が良かったことでスムーズに進行できました。

木製のプランターを用意したことや豊富な花色から好きな色を選んで頂いたので「豪華で素敵な寄せ植えができた」と参加者の方に大変好評で、満足して頂けたように思いました。体調が悪い方や、足が不自由なため参加できない方がいらっしゃったため、次回はそのような方々にも作品をプレゼントできるようにしたいと話し合いました。

写真-28　寄せ植え教室の様子

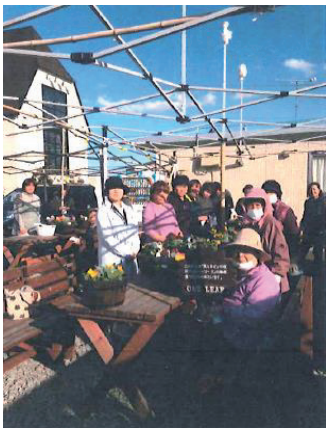


写真-29　集合写真

4）リース作成・寄贈

何年も使えるようにとの思いを込め、ふく

しま ONE LEAF メンバーで、ゴージャスなクリスマスリース 3 個を作成し、復興支援のために活動して下さっている事務所と集会所にお届けしました。いかにもクリスマスという色彩にしていないため長く楽しんで頂きたいと思っています。

写真-30
寄贈したリース

５）花壇メンテナンス

仮設住宅奥憩いの広場に設置してある花壇のメンテナンスを行いました。この活動にご賛同の方から、今年もバラ苗の寄付を頂き、花壇両脇にツルバラを植え込みました。他には、耐寒性のある草花を中心に、球根も加え春の花が楽しみな花壇に仕上げました。植え替え前の花は、住民の方が花ガラ摘みなどをして手入れして下さっていることがわかり、この小さな花壇に愛情を持って頂けているという事がわかりました。家にこもりがちな方にも、外に出て花壇の土を安心して触っていただくことも目標の一つであるため、非常に良い結果が出ていると思われます。

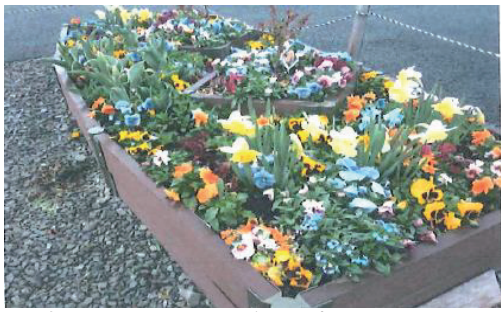


写真-31　メンテナンス後の花壇

■支援活動　平成 28 年度

１.基金からの助成金による支援活動

（１）ＮＰＯ法人Ｇｒｅｅｎ　Ｆｉｅｌｄｓ

１）保育園・幼稚園での花育活動

大船渡保育園・安渡保育園・鵜住居幼稚園・柳沢保育園の 4 か所において、プランター植栽による花育活動を行いました。地震により活動が延期になった際、避難所となっている保育園を訪れ現地の様子を伺い知り、引き続き活動を継続する必要性を感じました。

写真-1　安渡保育園寄せ植え教室

２）寄せ植え教室

7 月に大槌町バイパス花壇にて花壇の整備を実施し、参加者に寄せ植え教室を行いました。また、11 月には小槌仮設住宅にて、クリスマスに向けてコニファーの葉や木の実を使ったキャンドルホルダーを作成しました。

３）花壇整備

6 月、陸前高田市 45 号線沿い追悼施設前から BRT 奇跡の一本松駅前までの陸前高田フラワーロードにて、参加者 90 名とスタッフ 5 名で岩手国体に向けての花壇整備を行いました。また、11 月には岩泉乳業にてプランターへの植栽と花壇づくりの指導を行い、参加者を通じて被災した安家小学校に花苗、肥料を支援しました。

（２）（一社）日本ハンギングバスケット協会福島支部

福島県郡山市を中心に、花育活動として子供たちを対象とした寄せ植え教室や仮設住宅集会所の花壇づくりを行っています。

１）幼稚園での寄せ植え教室（郡山市田村町）

11 月 14 日、つつみ幼稚園にて、年長児 49 名を対象とした大規模な花育活動を行いました。当日は天候が良かったため、園庭にブルーシートを敷き、園長先生の挨拶、花育スタッフの自己紹介などをしながら寄せ植え教室をスタートしました。

植え付けるパンジーの花苗や、チューリップ、クロッカスの説明をしてから実際にスタッフが植え方を説明し、子供たちも同時進行で植え付けました。土の入れる高さを説明するのが難しいため、予め準備段階で鉢底石をネットに入れたものを準備し、プランターの内側にマジックで印をつけておいたので、土入れはスムーズに行うことができました。

ポットから苗を取り出す説明や、根鉢の肩の部分まで土を平らに入れる説明など、大人には簡単に伝わることが子供に伝えるとなると分かりやすい言葉に言い換える必要があり、難しかったです。また、人数が多く屋外で活動したため、子供たち全員に伝わるように大きな声話す、飽きないように話すなどの工夫が必要でした。子供たちにはパンジーを 1 人 3 株、チューリップとクロッカスを 3 球ずつ、好きな色を自由に選んでもらいました。みんな好きな色の花を植えて大変楽しそうでした。球根にも興味を持ち、「玉ねぎに似ている」などの発見もありました。

大規模な花育活動でしたが、幼稚園の園長先生や担任の先生方からは、「幼稚園や家庭ではなかなかできない体験を専門家の方の指導の下でできたのは素晴らしい。子どもたちの顔がいつもよりいきいきしていました。来年も是非お願いしたい」と大変喜んで頂きました。

写真-2　子どもたちとの寄せ植えの様子

写真-3　完成した鉢植えを前に集合写真

２）親子寄せ植え教室（郡山市麓山）

11 月 19 日、21 世紀記念公園麓山の杜とんがりふれあい館体験学習教室にて、親子寄せ植え教室を開催しました。講師 2 名に対し、参加者は 20 名です。球根や花は、チューリップやパンジーなどの秋植えのものを使用し、春まで楽しめる寄せ植えにしました。子どもの参加者は、幼稚園児から小学 6 年生までと年齢幅があり、作業する机の高さなど工夫が必要だと感じました。幼稚園児には講師が 1 人つき一緒に植え込みをしました。小学生はある程度自分で植え付けができましたが、入れた土の高さなどはまちまちでしたので講師が確認をしました。親子での参加のため思ったよりスムーズに進み、お母さん方からも植え方や育て方について熱心に質問がありました。球根や草花とどちらも一緒に植え方が教えられるのに加え、咲いたときに豪華に見えるため、大変好評でした。

写真-4　寄せ植え教室後、親子で集合写真

（３）花と緑の力で 3.11 プロジェクトみやぎ委員会

１）大川交差点花壇の植替

6 月と 11 月の二期にわたりに大川小学校遺族会の皆様と石巻市大川交差点花壇の植替を行いました。6 月はラベンダーの苗 200 本を植栽し、11 月は大森プランツから支援頂いた 3,000 球のチューリップ等の球根と工藤プランツから支援頂いた宿根草、ビオラの苗 1,680 本を植栽しました。

２）角五郎復興公営住宅 花壇の造成（仙台市青葉区）

復興住宅工事により仮設で造成した花壇がなくなった場所に、公営住宅の皆様と新たに「みんなの花壇」を 8 月から造成・植栽をし、12 月に植替を行いました。8 月は、花壇の掘り下げや客土入れ、攪拌作業を行った後、宿根草 200 鉢とオリーブや椿、アジサイを植えました。作業は多くの住民の方が手伝ってくれました。12 月は、ビオラ 480 本とチューリップ 2,000 球、スイセン 1,000 球、宿根草 100 ポットを植え付け、大変密な花壇が完成しました。

写真-5　角五郎復興公営住宅花壇の造成

（４）東日本に花を咲かせ隊

国営公園でのチューリップ、ムスカリ等の球根掘り上げ作業に協力し、増えた球根（球根の子球）の余剰分を譲り受け、被災地に届ける植栽支援を行っています。

１）球根の掘り取り

第１回掘り取りは、平成 28 年 6 月、国営昭和記念公園にて、チューリップ 2,000 球、ムスカリ 2,000 球を東日本に花を咲かせ隊員、保育園児、来園者及び一般市民等、延 224 人により掘り上げました。

写真-6　昭和記念公園･掘り取りの説明の様子

第２回掘り取りは、平成 28 年 6 月 11 日から 12 日にかけて、国営滝野すずらん公園にて、チューリップ 8,000 球を市民、企業応援隊、公園管理運営士会北海道支部会員等、延 1,851 人により掘り上げました。

写真-7　滝野すずらん公園･掘り取り

２）配送、ふるい分け

同年 9 月、滝野すずらん公園で掘り上げ、乾燥させた球根の選り分け作業と配送を行いました。8,000 球の内、選り分け作業の過程で腐敗や傷物等不適切な球根を除いた 7,500 球を被災地に配送しました。

また、11 月には昭和記念公園で堀上げ乾燥させた球根、チューリップ 15,000 球、ムスカリ 14,000 球についても選り分けを行い、不適切な球根約 8,000 球を除く、チューリップ 11,000 球、ムスカリ 10,000 球を配送しました。今年度の配送先は、岩手県と宮城県の 10 箇所となりました。

写真-8　球根の振り分け作業

写真-9　選り分け後の球根

３）植え付けの支援

11 月 19 日、陸前高田市の「キャピタルホテル 1000」前広場、ホテル休憩施設、「奇跡の一本松・慰霊碑」広場にて、隊員が植え付けの指導を行いながら地域の方と一緒に植え付けをしました。当日は、今にも雨が落ちてきそうな空模様でありましたが、早朝から作業に取り掛かり、地元住民、地元隊員など多くの方のご協力により、午後からの本格的な降雨前に終了しました。

写真-10　キャピタルホテル 1000 前広場・植え付け作業

写真-11　キャピタルホテル 1000 前広場・植え付け後

「奇跡の一本松・慰霊碑」広場では、平成 25 年に贈ったプランターの植え付け確認を行い、今年はチューリップを植えました。冬季は花が咲かないので、上部にはパンジーを植えています。

写真-12　奇跡の一本松慰霊碑前広場・植え付け確認

写真-13　奇跡の一本松慰霊碑前広場・プランター

（5）ふくしまONE　LEAF

郡山南一丁目応急仮設住宅の各所において、オープンガーデンの開催や花壇作り、寄せ植え教室などを行いました。

1）オープンガーデンの開催

5 月、昨年と同様 2 日間の開催とし、2 庭だけのオープンとなりましたが、来場者数は昨年と大きく変わらず、リピーターの方が多く定着したという印象を持ちました。今後はリピーターだけでなく、来場者開拓の方法を探り、花や園芸が身近なものになるよう普及していきたいと思っています。

パンフレットは外部発注で 300 部用意しましたが、そのほとんどがなくなりました。パンフレットは外部発注の方が安くなるので、今後は外部発注していくことにしました。

今年もワークショップの同時開催は人員的に厳しく見送りましたが、代わりに小さなマルシェを開きました。ワークショップも工夫してなんらかの方法で行いたいと計画しています。今後も文化活動として、また園芸普及

活動として続けていきたいと思っています。

写真-14　オープンガーデン、マルシェの様子

2）寄せ植え制作

仮設住宅の高齢者サポート拠点である「あさかの杜ゆふね」の玄関前に寄せ植えを制作しました。今年はスタートが遅かったので、夏・秋・冬の 3 回行いました。

冬はハンギングバスケット協会が寄せ植えをしてくれたので、こちらは前年に植え付けてあったコニファーへのクリスマス装飾を施しました。

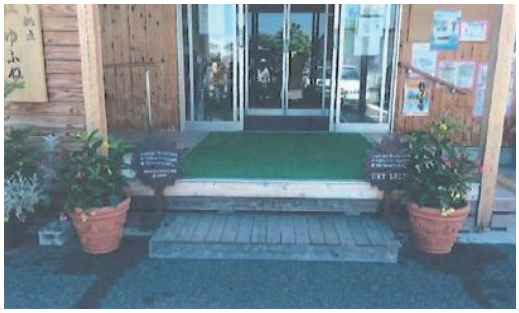


写真-15　高齢者サポート施設玄関の寄せ植え

写真-16　寄せ植え

写真-17 クリスマス寄せ植え

3）花壇作り

仮設住宅奥の憩いの場に設置した花壇に、夏と秋の 2 回植栽、メンテナンスをし、植え付け前には馬糞堆肥等を入れて土壌改良を行いました。

夏は炎天下の作業中に仮設住民の方が暑いだろうと思い簡易テントを張りました。秋も昨年と同じような植栽としました。

平成 29 年 3 月末の仮設住宅の閉鎖に伴い花壇も撤収で、3 月 29 日に全ての植物を鉢やプランターに移植しました。植物も土も全て川内村と富岡町へ行くことになっています。

写真-18　夏場の作業の様子

写真-19　冬場も色鮮やかな花壇

写真-20　花壇撤収のため移植された草花

4）寄せ植え教室

8 月に仮設住宅の高齢者サポート施設にて寄せ植え教室を開催しました。暑い時期なので見ても涼やかな苔玉作りをして頂きました。ランセイといういう草の種類でくるくるとしたラインが珍しく好評でした。

ケト土をこねて泥遊びの要素もありながらの作業は、おしゃべりも弾み楽しいものとなりました。「あれもできるね…」などと、今後も作りたいような発言もあり、苔玉は仮設

住宅のような限られた場所で楽しめるので良いと感じました。

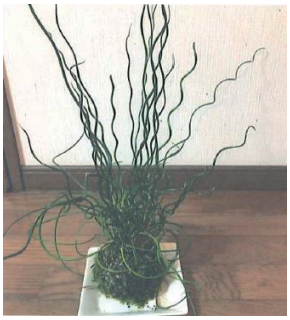


写真-21
見た目も涼しげな苔玉の寄せ植え

5）アレンジメント教室

11 月に仮設住宅高齢者サポート施設にてアレンジメント教室を開催しました。例年は生花で作成していましたが、今年は毎年使えるアーティフィシャルフラワー(高級造花)でクリスマスリースにしました。グルーポットを使い思い思いにお花を貼る作業は、ワイヤー等で留め付ける細かい作業がないため、高齢者が多い場合に有効だと思いました。

キラキラしたものが家にあると気分が向上すると選んだ材料でしたが、色が優しくクリスマスが終わっても使えると好評でした。

写真-22　作品を手に集合写真

写真-23
毎年使えるよう
高級造花で作成した
クリスマスリース

（6）ＮＰＯ法人冒険あそび場せんだい・みやぎネットワーク

津波により大被害を受けた海岸公園冒険広場（仙台市若林区）にて、衰弱の見られる被災公園シンボルツリーの延命措置及び枯損木のモニュメントとしての再生を行っています。

1）シンボルツリーの松の診断

9 月、宮城県樹木医会に依頼し、海岸公園冒険広場の入口周辺のシンボルとなる松の診断を行いました。

写真-24　樹木医による樹木診断の様子

2）シンボルツリーの延命措置

4 月、樹木延命処置として、NPO 法人樹木いきいきプロジェクトに依頼し、樹勢の衰えた松の根へ菌根菌の塗布を行いました。

写真-25　松の根への菌根菌塗布

3）枯損木のモニュメントとしての再生

海岸公園冒険広場（若林区井土地区）の隣の松林は、3 月 11 日の大津波でも奇跡的に流されませんでしたが、長期の滞水ほか環境変化に耐えられず、その後枯れてしまいました。

震災前・被災直後を生き抜いた松の記憶を留めたいと願い、阿部忠彦氏（仙台市宮城野区）にチェーンソー加工を依頼し、農業園芸センターの協力のもと、枯死した松を利用したモニュメントを作成することになりました。平成 29 年 3 月より作成しているふくろうのモニュメントは、花のプランターを置く台として、完成後しばらくの間、農業園芸センターに設置する予定です。

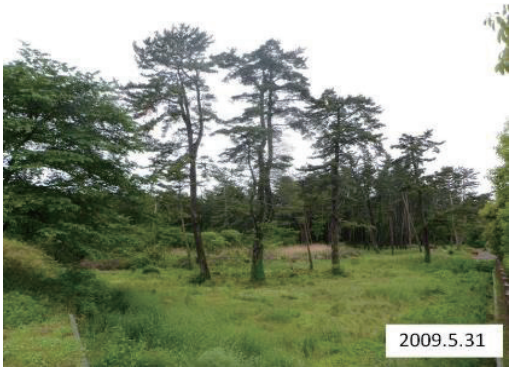


写真-26　海岸公園冒険広場より撮影した震災前の松林

写真-27　海岸公園冒険広場より撮影した震災後の松林

写真-28　作成途中のふくろうのモニュメント

写真-29　台部分に花のプランターを設置予定

■支援活動　平成 29 年度

1. 基金からの助成金による支援活動

（1）ＮＰＯ法人Ｇｒｅｅｎ　Ｆｉｅｌｄｓ

1）陸前高田フラワーロード花壇整備

津波対策のかさ上げ工事で休止になったフラワーロードの活動でしたが、地元の要望もあり、11 月に園芸家の先生による球根教室を開催し、45 号線沿いの看板下に球根類とビオラを植栽しました。参加者からは、かさ上げ後に再び活動をしたいという声を頂きました。

2）岩泉町花壇整備支援

10 月、岩泉町の安家小学校に、チューリップの球根、ビオラ、培養土、肥料をお届けし、春花壇とプランターの植え替え、花壇作りの指導を行いました。また、岩泉乳業では、7 月と 10 月の 2 回に分けて、昨年植えたチューリップの後に植えるベゴニアなどの花苗と肥料、培養土をお届けし、花壇作りの指導を行いました。

写真-1　花壇づくりの説明

3）大槌町フラワーアレンジメント教室

大槌町屋敷前災害公営住宅で、昨年結成した災害公営住宅の園芸クラブ「すみれ会」の皆さんと、敷地内の花壇の整備と 4 回のアレンジメント教室を行いました。7 月ラベンダースティック作り、9 月花壇の花を使ったアレンジ、10 月たねダンゴ作り、12 月スワッグ作りなど花を楽しむ内容にし、各回の参加者は 10 名程度です。また、11 月には大槌町小鎚仮設住宅にて、クリスマスに向けて、まつかさを使ったとんがり屋根のハウスを作り、多肉を植えた箱庭を作成の講座も行いました。

写真-2　完成したスワッグを手に記念撮影

4）大船渡保育園花育活動

11 月、大船渡保育園にて園児 40 名を対象に寄せ植え教室を行いました。プランターには、チューリップの球根、ムスカリとビオラの花苗を植え付けました。

（2）サークルはなあそび

日本ハンギングバスケット協会福島支部が会員外の協力者と連携し花育活動をしています。

1）ほしのこ保育園での寄せ植え教室（福島県郡山市向河原町）

11 月 6 日、年中、年長児を対象に寄せ植え教室を行いました。事前に先生方と打ち合わせ、幼い子の集中力に合わせた時間配分や説明の工夫が必要だと伺いました。当日は晴天で、球根やパンジーの花苗など写真を見せながら説明しました。球根を見て、「ニンニクみたい」という子もいて、球根とニンニクが同じ仲間であることを説明しました。プランターの内側には線を引いて土を入れる量が分かりやすいよう工夫しました。子どもたちは手が小さいので苗をポットから出す作業が難しく、先生やスタッフで確認しながら行いました。パンジーは各色準備し、「かっこいい色を選んだね」「可愛い色だね」と声かけ

を行い、花を選ぶ楽しさを伝えながらそれぞれの意見を尊重しました。完成後は管理の仕方を伝え、水やりを行いました。先生には肥料を渡し、1 ヶ月に 1 度忘れずにあげてもらうことにしました。そうすることで育てる楽しさや難しさに気づき、継続的にお世話する必要があると学んでもらいます。上手く育たなかったり、土が足りなかったり、倒してしまう子のために、予備で土や花苗を渡しました。子どもたちも先生方も楽しんでいました。

写真-3　好きな色のパンジーを選ぶ様子

2）星が丘保育所での寄せ植え教室（福島県郡山市片平町）

11 月 2 日、年中、年長児 13 人を対象に寄せ植え教室を行いました。打ち合わせで園を訪問すると、ひまわり、野菜など様々な植物が園内に植えられていました。先生の話によると、四季折々、花や野菜を子どもたちと育て、収穫を楽しんでいるということでした。活動当日は晴天で屋外での活動となり、チューリップやクロッカスなどの球根植物とパンジーの寄せ植えにしました。先生も子どもたちも明るく元気いっぱいで、土や植物の扱いに慣れているようでした。花の管理の説明のときに飽きてしまう子がいたので、なんとか集中力を持続させることが課題だと感じました。ほしのこ保育園と同様、肥料・土・花苗を予備として渡しました。

写真-4　作業にとりかかる子どもたち

写真-5　土入れ作業

写真-6　先生と記念撮影

3）三春保育所での寄せ植え教室・花壇植え込み（福島県田村郡三春町）

11 月 13 日、活動当日は晴天。今回は、年少児は園に飾るプランターに寄せ植えをし、年中児は園の花壇に球根を植えてもらうことにしました。年少児にはチューリップ、スイセン、クロッカス、アンフェイオンなどの球根とパンジーや寒さに強いカルーナの苗を準備しました。年少児なので、苗の色や形を楽しみながら実際に花や土に触れてもらうこと

に重点を置きました。年中児が植える花壇は、事前に枯れた花を抜き土の量が格段に少なくなっていたため、堆肥・腐葉土・肥料などを入れ培養土も足し、小さい子でも簡単に掘れるほどのふかふかの土になりました。「家ではさせてあげることができない活動だ」と、父兄にも好評でした。先生方からは「子どもたちと寄せ植えを育てていくにあたり知識も欲しいので先生を対象とした教室も開催して欲しい」という要望もありました。

写真-7　花壇の土作り

写真-8　説明を聞く子どもたち

（３）（一社）日本ハンギングバスケット協会福島支部

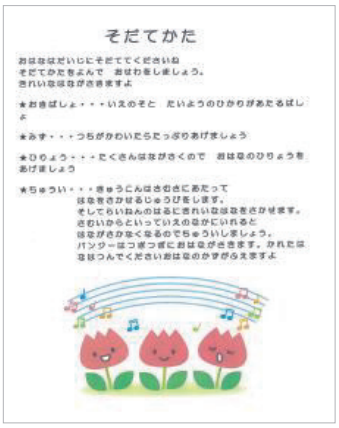
福島県郡山市を中心に、子供たちを対象とした寄せ植え教室や花壇づくりを行っています。

１）三春保育所での寄せ植え教室（福島県田村郡三春町）

10 月 26 日、年長児 25 名を対象に寄せ植え教室を行いました。毎回活動を楽しみにしてくれている三春保育所。秋に制作した寄せ植えを大事に育て、パンジーとノースポールが満開に咲いた寄せ植えを卒業式にホールに並べてお祝いするのが恒例行事になっています。植え込んだチューリップは卒業式には開花しないが、子どもたちが小学校に入学する頃に咲くそうです。毎年の積み重ねが定着するのは嬉しいことです。今年も活動日は晴天。球根の色とパンジーの色を自由に選ぶときには、自分が何故この色を選んだか話してくれる子、家でパンジーを植えたことがあるよと話してくれる子、植える苗の数を忘れた子に「これは３つだよ」と教えてあげる子など、優しい光景に癒やされました。活動のなかで、わたしたちが子どもたちからもらえるパワーは本当にありがたいです。三春町には、三春保育所の他にも同じような小さな保育所があるようで、「このような経験を他の保育園の子どもたちにもさせてあげたいので、来年可能ならお願いしたい」というお話も頂きました。何年も続けてきたことが無駄ではなかったと、嬉しく思いました。

写真-9　寄せ植え作業の様子

写真-10　寄せ植えを前に集合写真


そだてかた

おはなだいにそだててください
そだてかたをよんで　おはなをしましょう。
きれいなはながさきますよ

★おきばしょ・・・いえのそと　たいようのひかりがあたるばしょ

★みず・・・つちがかわいたらたっぷりあげましょう

★ひりょう・・・たくさんはながさくので　おはなのひりょうをあげましょう

★ちゅうい・・・きゅうこんはさわさにあたって
はなをさかせるじゅうびをします。
そしてらいねんのはるにきれいなはなをさかせます。
さむいからといっていえのなかにいれると
はながさかなくなるのでちゅういしましょう。
パンジーはつぼつぼにおはながさきます。かれたら
なはつんでください おはなのかずがふえますよ

写真-11　子どもたちに配布した花の育て方

2）つつみ幼稚園での花壇の植え込み（福島県郡山市田村町）

11 月 15 日、年中児と共に花壇への植え込みを行いました。花は、チューリップ、スイセン、アイフェイオン、クロッカスなどの球根植物と、耐寒性のあるパンジー、カルーナを用意しました。土の状態がよくなかったので、土作りからスタートしました。園舎の前にある大きな花壇 2 つに、堆肥、腐葉土、培養土、肥料を混ぜ込み土作りをした後、子どもたちに、球根や花苗を自由に植えてもらいました。その他、園に飾る用のプランターにも植えました。他の子が植えた球根を芋と勘違いして「先生、お芋でてきたよ」と得意げに掘り起こしてしまう子がいて、思わず笑ってしまいました。始めに子どもたちに向けてスタッフの自己紹介をしていましたが、名前を忘れてしまい話しかけにくそうな子もいたので、スタッフにも名札が必要だと思いました。

写真-12　花壇への植え込み作業

（4）花と緑の力で 3.11 プロジェクトみやぎ委員会

今年度は宮城県七ヶ浜町にある「七ヶ浜みんなの家きずなハウス」にて、3 期にわたり緑化支援を行いました。きずなハウスとは、大きな津波被害を受けた七ヶ浜町で住民が気楽に集まれる拠点を造ろうと、NPO 団体や民間企業、ボランティア、町民の協力により復興支援の一環として建てられた交流施設です。

1 期目は 7 月 21 日のきずなハウスオープンに伴い、敷地の盛り土整地及び芝生花壇の整備、樹木の植栽を行いました。また、敷地外周一部の暗渠工も行いました。

写真-13　緑化計画平面図

2 期目は 9 月に淡路景観学校の支援のもと、親子参加のワークショップを開催しました。ハーブの寄せ植えプログラムでは、「ハーブを育ててお母さんにハーブティーを作ってあげたい」と言う女の子もいました。緑化活動では、柔らかな陽だまりができる木陰と宿根草のスモールガーデンが出来上がりました。

写真-14　ワークショップの様子

3 期目は 10 月に横浜 JA 植木部会の皆さんの支援のもと、住民の皆さんと共同できずなハウスの庭にオリーブやハナミズキなどの樹木を植栽しました。

写真-15　植栽作業の準備中

（５）東日本に花を咲かせ隊

国営公園の球根掘り上げ作業に協力して譲り受けた余剰分のチューリップ、ムスカリ等の球根を被災地に配送し、被災者の方々と共同で植え込みを行っています。

今年度は球根の植え込みと合わせて、(公財)日本花の会からの寄付頂いた桜の苗木の植栽も行いました。

１）国営公園での球根掘り取り

第１回掘り取りは、5 月 20 日、国営昭和記念公園で行いました。東日本に花を咲かせ隊員 16 名、公園入場者 184 名、合計 200 人で 10,000 球を掘り上げました。

写真-16　昭和記念公園　作業説明

写真-17　掘り上げの様子

第 2 回掘り取りは、6 月 10 日から 11 日の 2 日間にかけて、国営滝野すずらん丘陵公園で行いました。東日本に花を咲かせ隊員 9 人と市民 811 人、合計 820 人により約 10,000 球の球根を掘り上げました。

写真-18　滝野すずらん丘陵公園 掘り取り作業

２）配送、ふるい分け

10 月 3 日、花を咲かせ隊員、公園管理運営士会員の一部で、滝野すずらん丘陵公園で春に掘り上げた球根の仕分け（カビや傷の不良球を除く作業）を行いました。チューリップの球根の良否を選別し約 4,000 球を、岩手県陸前高田市 2 箇所、岩手県大船渡市、宮城県気仙沼市、岩沼市、仙台市に 1 箇所ずつの計 6 箇所の被災地に配送しました。

写真-19　乾燥状態の球根

10 月 29 日、昭和記念公園で掘り上げたチューリップ、ムスカリの球根の仕分けを行いました。市民や韓国からの留学生、東日本に花を咲かせ隊員合計 22 人が集まり、両球根約 8,000 球選別し、岩手県陸前高田市 1 箇所、大船渡市 1 箇所、宮城県気仙沼市 2 箇所の計 4 箇所の被災地に配送しました。

写真-20　韓国からの留学生も参加

3）陸前高田市キャピタルホテル 1000 における桜およびムスカリ球根の植栽

11 月 24 日、朝小雪交じりの中、桜の植栽に当たっては、アプローチ道路やホテル敷地の植床が思ったより硬く作業は難儀しましたが、隊員持参の掘削機ユンボが効率的に使用できたことに加え、掘削土に隊員からの差し入れの肥料を混ぜ合わせたので、今後の桜の成長が期待されます。さらに、同じく隊員が、桜苗木の風除け支柱の取付け作業で指導的な役割を担い、地元協力者から大変感謝されました。一方のムスカリの球根植栽でも同じように植床が固かったのですが、ここでもユンボと隊員の活躍もあり整然と畝が掘られ、ムスカリ約 2,000 球が植えられました。午後は晴れ間も出て、前述の桜の苗木 34 本も順調に植えられ、作業が完了しました。

写真-21　掘削及び土と肥料の撹拌

写真-22　桜苗木への支柱取り付け作業

写真-23　ムスカリの植栽

写真-24　花壇に刺したプレート

4）南三陸町寄木地区における桜の植栽

翌 11 月 25 日は南三陸町歌津寄木地区に移動するため朝一に出発し、午前 10 時 30 分に現地に到着しました。当日の寄木地区は天候も良く、景観の美しい伊里湾の奥に位置する魚港でした。震災前は砂浜も見えていましたが震災後は地盤沈下があり、現在は約 70 cm の海の下です。地震後の津波被害が大きく住宅は防災集団移転地の高台に移っており、この高台の寄木地区に桜を植栽することになりました。道路、広場等の植床は比較的柔らかく、現場も広かったため作業は順調に進み、前年県の農業高等学校で植えた桜の木の補植 7 本をはじめ、広場に 20 本、道路等に 39 本の計 66 本の植栽が無事終了しました。

写真-25　寄木地区漁港

写真-26　津波到達点の碑 海岸から約 2 kmに有

（６）ＮＰＯ法人冒険あそび場せんだい・みやぎネットワーク

閉校となった仙台市若林区旧東六郷小学校跡地における花壇の設置とシンボルの桜の木を継承するプロジェクトを行いました。

１）旧東六郷小学校の校舎解体前の花壇の設置

東日本大震災で大きな津波被害を受け、3 月に閉校した仙台市若林区の旧東六郷小学校が取り壊されるのを前に「校舎を送る会」を 6 月 11 日、同校で開催しました。

送る会は、市民センターの声かけにより、地元にゆかりのある住民、支援団体等が集う「わたしのふるさとプロジェクト」の企画の一環として実施しました。

「地域住民が最後にお別れする場を」という声を受け、卒業生や保護者、元教職員ら約 100 名の参加者で、感謝の気持ちを込めて校舎や校舎周りの清掃、プランターの花植えなどを行いました。マリーゴールドとニチニチソウの 2 種類の花が植えられたプランターは、校庭にある震災慰霊塔を囲むように設置しました。

慣れ親しんだ校舎の解体はさみしい限りですが、最後の最後にもう一度皆で送ることができたのは、本当によかったです。

写真-27　プランターに花を植える参加者

２）桜の木のいのちの継承

旧東六郷小学校の津波をかぶりながらも生き残った桜の木は、校庭のシンボルとなっていましたが、著しく樹勢が落ちてきました。この桜が枯れる前に、できる限り命をつなぐ策として、接ぎ木を実施することにしました。まず 11 月 17 日に樹勢確認を行い、2 月 2 日に接ぎ木作業を行いました。

写真-28　桜の樹勢確認

写真-29　接ぎ木する枝の採取

■支援活動　平成 30 年度

１．基金からの助成金による支援活動

（１）グリーンアドバイザー九州

公益社団法人日本家庭園芸普及協会が認定する「グリーンアドバイザー」資格保有者の有志の会。熊本地震で被災された方々に花による心の安らぎと、花に関わる活動を通したふれあいのひとときを感じてもらいたいと、熊本地震で被災した御船町、大津町、南阿蘇村の仮設団地や保育園等で「グリーンアドバイザーによる花いっぱいキャンペーン」と題して花植え活動を行いました。

１）御船町ふれあい仮設団地、小坂仮設団地花植え活動

（株)くまもと健康支援研究所が、熊本県から委託を受けて行う「地域支え合いセンター」の活動の一環として実施しました。11 月 15 日、プランターの古い土から根などを取り除き、新しい培養土と緩効性肥料を合わせて土作りをし、パンジーの苗、チューリップの球根を植え付けました。駐車場の一角のユニットで作った畑は、春は種から野菜を育てていましたが、冬は花畑にする為に花苗と球根を植えました。作業終了後は、お茶タイムで交流。現在も住民の方が自主的にお手入れをし、花を摘んで集会室に飾るなど活用されているそうです。

写真-1　ふれあい仮設団地参加者で集合写真

写真-2　春の野菜畑を冬は花畑に

２）熊本市東区やまなみこども園花植え活動

震災直後、園のホールと園庭を自主避難所として運営していた保育園です。11 月 16 日、9 時半に園庭の一角で準備を行い、10 時半より年中組の子どもたちと一緒に花植え活動を行いました。園内の空きプランターを各所から集め、花の植え方を説明。この園の保育方針はとてものびのびしたものでありますが、そのせいか、皆の集中力は高く、熱心に作業に取組み、作業が終了後も嬉しくて興奮気味でした。できあがったプランターは園内の各所に飾り付けました。

写真-3　熱心に作業説明を聞く子どもたち

写真-4　球根が見えなくなるまで丁寧に土を被せる

写真-5　子どもたちと一緒に集合写真

３）南阿蘇村 岩坂仮設団地花植え活動

11 月 16 日午後、岩坂仮設団地にて花植え活動を行いました。事前に南阿蘇村地域支え合いセンターに届けていた花苗を、センターの方が仮設団地まで運んでくれていました。なお、センターに届けた花苗の一部は、今後、職員の方が仮設団地を巡回する際に、住民の方に直接手渡しをしてくれるそうです。

岩坂仮設団地は、お花が好きな住民の方が大変多いとのことで、スタッフが到着したときには既に完璧に準備がされており、すぐに植え付けに取りかかることができました。住民の皆さんは手慣れた様子で、あっという間に作業が終わり、作業後は仮設団地の集会室で、お茶タイムと健康体操を行いました。

写真-6　岩坂仮設団地での作業の様子

（２）ＮＰＯ法人Ｇｒｅｅｎ Ｆｉｅｌｄｓ

昨年に引き続き陸前高田フラワーロードの植栽活動、大槌町フラワーアレンジメント教室を開催。本年度の新たな活動は釜石市青葉通り復興住宅前の花壇への植栽です。

10 月にたねダンゴとラベンダーの植栽、11 月に球根とビオラの植栽、3 月に宿根草の花壇作り活動他、釜石市内の復興支援住宅にビオラ、プランター等を届けました。また、大船渡夢商店会にビオラ、ラベンダーを届け、花壇に植栽してもらいました。

写真-7　たねダンゴの植栽

写真-8　作業前に植栽の配置を確認

（３）サークルはなあそび

（一社）日本ハンギングバスケット協会福島支部が会員外の協力者と連携し花育活動をしています。

１）つつみ幼稚園での花育活動（福島県郡山市田村町）

10 月 11 日、年長児 36 名を対象に寄せ植え教室を行いました。当日は雨天のためホールにブルーシートを敷いて屋内の活動となり、保護者と先生方にもお手伝い頂きました。今回はパンジーとビオラを使用しましたので、2 つの花の大きさや違いなどを説明。クイズ形式で質問しながら進めると子どもたちの集中力も長続きするようです。「早いのが上手ではなく、丁寧に仕上げるのが上手なんだよ」と声をかけると、土入れ作業や苗をポッ

トから出す作業も習った通りに丁寧に行っていました。後日、保育園を訪れると先生から「子どもたちは毎日水やりを頑張っていますよ」と嬉しいコメントを頂きました。

写真-9　好きな色のパンジーを選ぶ様子

２）企業主導型保育園キッズルームひばりでの寄せ植え教室（福島県郡山市富久山町）

10 月 15 日、寄せ植え教室を行いました。1 歳児 4 名、2 歳児 3 名、5 歳児 1 名と年齢が低かったため、おやつを食べた後、お花に関する絵本を読み聞かせ、チューリップの歌を歌い、お花に興味が持てるような導入を行いました。スムーズに活動が進むよう、事前にプランターにある程度の土を入れておき、それぞれのプランターの近くに球根と花苗を準備し、ひとりひとりにシャベルを渡しました。球根を植える際、先生が「優しく土のお布団をかけてあげようね」と声をかけると、シャベルで「ねんね～ねんね～」と話しながら土をかける姿がありました。最後に、子ども用の小さなじょうろで、完成した寄せ植えに水をあげ、子どもたちと「毎日水をあげること」を約束しました。園庭もなく砂遊びもできない園のため、子どもたちにとっては貴重な経験となったようです。

写真-10　球根に土をかぶせる様子

写真-11　完成した寄せ植えに水やり

３）21 世紀記念公園麓山の杜とんがりふれあい館での親子寄せ植え教室（福島県郡山市麓山）

11 月 10 日、親子寄せ植え教室を開催しました。事前に募集ポスターを貼ってもらい、当日は 4 歳から小学 6 年生までの子どもたちと保護者合わせて 20 名が参加しました。親子参加型のイベントは保護者の意見が強くなり子どもが自分の好きなように選ぶことが出来ないことがあるため、作業前に保護者には子どもの意見や感性を優先して頂くように説明をしました。葉っぱに隠れたところなどに土を入れていない子もいたのでこまめに声かけを行い、最後に寄せ植えにピックを刺して完成。小さい子が多いときは、ピックやガーデンアクセサリーを付けるととても喜んでくれます。子どもたちは行程の説明もよく聞き、間違いなく作業を進めていたので感心しました。

写真-12　親子での作業の様子

４）星が丘保育園での花育活動（福島県郡山市片平町）

11 月 18 日、年少・年中・年長児 18 名を対象に寄せ植え教室を行いました。当日は 1 時間前に到着し、外で準備をしていると、その様子を子どもたちが室内から興味津々で見ていました。3 歳児が 10 名と多かったですが、最後まで飽きることなく活動してくれました。子どもたちの軍手をつける作業がスムーズで驚いたので先生に聞いてみると、園では毎年サツマイモを植えて収穫し、焼き芋パーティーをしているからとのことでした。土に触れる経験がある子どもたちも、花を植えるのは初めてという子が多いようでした。自分が選んだパンジーに名前を付けて、お花に話しかけながら作業をしている姿がとても純粋でかわいらしかったです。活動終了後には「どうして花は枯れるの？」といった質問もあり、寄せ植えを作る技術だけにとどまらず、そんな純粋な疑問にも答えてあげられるようにスキルアップを目指したいと思いました。

写真-13　完成した寄せ植えを前に集合写真

写真-14　配布したお花の育て方の説明書

（４）仙台ふるさとの杜再生プロジェクト連絡会議

甚大な被害を受けた仙台東部地域のみどりの再生のため、仙台市が事務局となり、市民・NPO・企業等のメンバーで「ふるさとの杜再生プロジェクト」事業として植樹会・育樹会等に取り組んでいます。

今回は、災害復旧工事を終え平成 30 年 7 月に再開園した海岸公園（井土地区）で、11 月 25 日、「ふるさとの杜再生プロジェクト第 8 回植樹会」を開催しました。いつもは山や海からの強い風が吹く公園ですが、当日は温かな日差しの穏やかな天候に恵まれました。仙台市若林区六郷地区住民や地元企業などから計 400 名が参加し、8 班に分かれ、公園にある避難の丘やデイキャンプ場、駐車場の周辺に、サクラやコナラ、コブシ、アジサイなど約 25 種、約 2,300 本を植樹しました。植樹の際は、仙台市認定緑の活動団体や仙台ふるさとの杜再生プロジェクト連絡会議の会員に「植樹リーダー」になってもらい、参加者に公園の被災の様子や津波に強いまちづくりのための公園、かさ上げ道路の工事について紹介し、しっかりと根が張るよう植え方の指導をして頂きました。子どもたちも協力して穴を掘ったり苗を運んだりしました。参加者からは「植えた苗木が大きく育ってほしい」「公園に遊びに来た時に植樹した苗木の成長を観察したい」などの感想を頂きました。今

後も東部地域のみどりの再生に向け、「ふるさとの杜」を育んでいきたいです。

写真-15　植樹作業の様子

写真-16　参加者で集合写真

（５）花と緑の力で 3.11 プロジェクトみやぎ委員会

石巻市南浜地区復興祈念公園（仮称）関連の支援活動等を行っています。

12 月、若林区公営復興住宅と名取市のサポートセンターで「金子明人さんによるクリスマスローズの育て方・寄せ植えサロン」を開催しました。各回とも 25 名ほどが参加、笑顔あふれる会となりました。講師の金子明人氏は、平成 23 年より毎年ボランティアで指導に来てくれており、委員会では支援を受け、寄せ植え資材を用意しています。

写真-17　作業しながら参加者同士の会話で笑顔に

写真-18　ボランティアで講師の金子先生

（６）東日本に花を咲かせ隊

国営公園の球根掘り上げ作業に協力して譲り受けた余剰分の球根を、被災地に配送し、球根や桜の植え込みを行っています。

１）国営公園での球根掘り取り・選別作業

第１回掘り取りは、平成 30 年 5 月 19 日、国営昭和記念公園で行いました。隊員と公園入場者、合計 202 名で約 10,000 球を掘り上げました。当日は快晴で、参加者は球根の植える時期の話などで盛り上がりました。

第 2 回は、6 月 9 日と 10 日の 2 日間にかけて、国営滝野すずらん丘陵公園で行いました。隊員と市民、合計 1,883 名で約 20,000 球を掘り上げました。

写真-19　滝野すずらん丘陵公園 掘り上げ作業

昭和記念公園で掘り上げたチューリップ・ムスカリの球根は、10 月 20 日、隊員有志 21 名が集まり、両球根約 8,000 球を選別し、被災地に発送しました。作業の様子を一般入場者が見学されていました。

滝野すずらん丘陵公園で掘り上げた球根は、10 月 17 日、フラワーガイドボランティアの協力を得てチェック・仕分けし、大型の球根

5,000 球を発送しました。

写真-20　球根の選別作業

２）　キャピタルホテル 1000 での植え込み作業（岩手県陸前高田市）

11 月 10 日、キャピタルホテル 1000 周辺広場にて隊員と地元住民の方と共に、チューリップとムスカリの植え込み作業を行いました。前日の雨により作業は苦戦しましたが、持参した小型ユンボの活躍もあり、朝 8 時半から始めた作業は 12 時頃に終了しました。隊員から肥料の差し入れがあり、球根の成長が期待されます。

午後は、もう一つの被災地、大槌町に向かいました。

写真-21　掘削及び土と肥料の撹拌

３）ベルガ-ディア鯨山「風の電話」への球根のお届け（岩手県大槌町）

ベルガ―ディア鯨山にある「風の電話」は、東日本大震災発生の翌月に設置された電話ボックスです。黒のダイヤル式電話の電話線は繋がっておらず、心で話すか筆談で話すことになりますが、年間 3 万人が訪れるといいます。

この場所に、今年はチューリップ、ムスカリの球根約 1,500 球を届けました。

写真-22　球根の受け渡し

写真-23　風の電話

４）　三陸花ホテルはまぎくでの球根の植え込み、桜の植栽（岩手県大槌町）

11 月 11 日、三陸花ホテルはまぎくにて、隊員とホテル従業員と共に植え込みを行いました。ホテルは大槌町の海岸線にあり、震災の際は津波に襲われましたが、幸い建物は残ったそうです。

一班は、海岸側の球根植付け、二班は道路側のさくらの植栽に取りかかりました。さくらは昨年のストック 10 本、球根は、昭和記念公園から持参した約 2,500 球を植え込みました。

写真-24　さくらの植栽

（７）ＮＰＯ法人冒険あそび場せんだい・みやぎネットワーク

震災後約 7 年 4 ヶ月ぶりに再開した海岸公

園冒険広場にて、地域の再生を花とみどりで応援するため、子どもたちを対象に 7 月 8 日、植樹会を開催しました。

１）海岸公園冒険広場での児童による植樹（仙台市若林区）

仙台市若林区東六郷地域は、全域が津波被害を受け、住民の移転が進むにつれ人口が減少、地区の小学校（旧東六郷小学校）が閉校するなど地域活性化が課題です。このような状況の中、子どもたちに木や花の苗を植える機会をつくり、足を運んでもらうことで地域の賑わい作りに繋がればと思い、海岸公園冒険広場で小学生向けの植樹会を開催しました。

この植樹会は、「夏休み交流会」と題し、7 月 28 日、六郷小学校の 6 年生 18 名と、福島県只見町立旭小学校の 6 年生 16 名との交流企画として実施。海岸公園（荒浜地区）センターハウスでの自然素材を使ったクラフトづくりや、震災遺構仙台市立荒浜小学校の見学を行った後、海岸公園（井土地区）にて東日本大震災からの復興を願って、仙台市の花「ミヤギノハギ・センダイハギ」と、只見町の花「コブシ」を植樹しました。

写真-25　クラフト作りの様子

写真-26　児童による植樹の様子

２）旧東六郷小学校の桜の木のいのちの継承

地域の人々にとって思い出の残る旧東六郷小学校（平成 29 年 3 月閉校）で、津波をかぶりながらも生き残った桜の木は、校庭のシンボルとなっています。しかし、著しく樹勢が落ちてきたため、この桜が枯れる前にできる限り命をつなぐ策として、昨年は樹勢確認と接ぎ木作業を行いました。1 月 27 日、管理場所より現地に戻すための準備として、接ぎ木苗の植え替え作業を行いました。

写真-27 は現在の桜の木の状況で、手前は、平成 31 年 3 月完成した地域慰霊碑、奥は校舎解体後に避難場所となった避難ビルです。

写真-27　接ぎ木にいのちを託す桜の木の現況

■支援活動　平成 31（令和元）年度

１．基金からの助成金による支援活動

（１）ＮＰＯ法人Ｇｒｅｅｎ　Ｆｉｅｌｄｓ

グリーンアドバイザー等の花と緑に関する資格を有している会員などと参加者が、令和元年７月２日に大槌町屋敷前災害公営住宅と釜石市青葉通り復興住宅前で、たねダンゴを作り夏花壇に植栽しました。また、９月４日には、９月下旬のラグビーW杯で釜石鵜住居復興スタジアムに訪れる世界中の来訪者を迎えるため、夏の暑さで蒸れた駅前花壇にケイトウを補植、９月 28 日には、陸前高田フラワーロードの道の駅オープンに向けた植栽活動を行いました。その他、季節に合わせラベンダースティックやクリスマススワッグを作る教室も開催しました。

写真-1　大槌町公営住宅でたねダンゴの作成中

写真-2　釜石市鈴子町駅前のケイトウの補植

写真-3　陸前高田フラワーロード道の駅の植栽

写真-4　クリスマススワッグ作り教室

（２）サークルはなあそび

(一社)日本ハンギングバスケット協会福島支部が協力者と連携し、星が丘保育園、ほしのこ保育園、三春第２保育所で花育活動をしました。

パンジーの花苗とムスカリとチューリップの球根の寄せ植えは、園児同士話し合い協力しながらの作業でした。パンジーの花を「ちょうちょみたい」、球根を「どんぐりみたい」と可愛らしい声もありました。ほしのこ保育園は令和元年 10 月の台風でも敷地や建物が水没したため開催を躊躇しましたが、園庭が使用できず、園児が部屋の中で過ごしていると伺い、被害から１か月後に活動することにしました。まだ幼い子は、花をプランターにおき土を入れるだけの作業ではありましたが、久々に土いじりができたことで園児たちのにこやかで嬉しそうな表情を見ることができ、関係者にも大変喜ばれました。

写真-5　星が丘保育園寄せ植え完成後

写真-6　ほしのこ保育園スコップで作業

（３）花と緑の力で 3.11 プロジェクトみやぎ委員会

そこに暮らす人々が、花と緑のある生活を取り戻すことができるよう願い、12 月 15 日に東松島市野蒜市民センターと仙台市若林区荒井東復興公営住宅で開催したのが「NHK 趣味の園芸講師金子明人氏によるクリスマスローズの育て方・寄せ植えサロン」です。

ボランティアの金子明人氏は、楽しい話術で講師を務め、小さい子供を含めた 55 名の参加者のたくさんの笑い声と笑顔あふれる寄せ植え教室となりました。

写真-7　仙台市寄せ植え教室受講中

写真-8　東松山市教室終了後に記念撮影

写真-9　完成したクリスマスローズの寄せ植え

（４）東日本に花を咲かせ隊

国営公園の花壇で、隊員と一般市民（公園入場者を含む）が参加し、花期の終わったチューリップやムスカリの球根の植替え時、球根堀上げ作業に協力することで、譲り受けた余剰分の球根を被災地に配送する、今回で 9 年目を迎える花と緑を活用した活動です。

国営昭和記念公園の渓流広場においては、令和元年 5 月 18 日に約 200 人で 2,000 球、国営滝野すずらん丘陵公園の滝野公園カントリーガーデン「花の牧場」においては、6 月 8～9 日に計約 2,000 名で約 20,000 球の球根を堀上げました。

写真-10　国営滝野すずらん丘陵公園堀上げ作業

5 月のイベント後に掘上げた分も含め、2 か所の公園分と合わせた球根は 40,000 球です。この球根が乾燥後の 10 月に、フラワーガイドボランティア等とともに、清掃し、植え込み後の成長の適否や大きさ等の振分けをする作業を行いました。選別した球根は、東北の被災地 12 か所に配送しました。

写真-11　国営昭和記念公園球根の仕分け作業

11 月 8～9 日、球根の送付先である岩手県陸前高田市「キャピタルホテル 1000」及び大槌町「三陸花ホテルはまぎく」の周辺道路や広場・花壇で、地元の方たちと隊員 11 名は、チューリップ約 6,000 球、ムスカリ約 4,000 球の球根の植付け作業を行いました。

写真-12　キャピタルホテル 1000 周辺球根を植え

また、球根の送付先の一つである「ベルガーディア鯨山」に立寄り、送付した球根を庭園に植えて頂くようお願いするなど交流を持ちました。

球根の掘上げや振分け作業は、造園 CPD 認定プログラムの認定を受けました。

なお、昨年植えたチューリップは、桜や梅などが咲く前の 4 月下旬に一面に咲き揃い、現地を訪れた方に大変喜ばれていたそうです。

写真-13　昨年度植栽の球根が 4 月に満開

（５）ＮＰＯ法人冒険あそび場せんだい・みやぎネットワーク

若林区東六郷地域における植樹・花植えと、閉校になった小学校のシンボルの桜の木を継承するプロジェクトです。仙台市若林区東六郷地域は、全域が津波被害を受け人口が減少、地区の小学校も内陸の六郷小学校と統合されるなど、地域活性化が課題となっています。本事業は、地域の住民の思いを受け止めながら、花とみどりの力で地域の活性化を応援していくものです。

本年度は、4 つの事業に取り組みました。

1）海岸公園冒険広場での児童による育樹・交流活動

令和元年 7 月 24 日、昨年度と同じく、地元の六郷小学校と福島県只見町立旭小学校の両校児童の交流企画を実施。昨年、植樹した「交流の杜」の草取りなど「育樹」活動を行いました。

写真-14　作業前の説明

2）閉校になった旧東六郷小の桜の木のいのちの継承

地域の人たちにとって思い出の残る東六郷小学校(平成 29 年 3 月閉校／仙台市若林区種次)で津波をかぶりながらも生き残った桜の木の樹勢が落ちたため、一昨年度より接ぎ木により苗を育ててきました。

本年度は、埼玉県の管理場所から東六郷小学校跡地に戻すための準備として、接ぎ木から大きく育ってきた苗を仙台に移し、令和 2 年 3 月に仮植えをしました。仮植えは、今後見守っていく六郷東部地域の住民たちに広く呼びかけ集まってもらいました。この苗は、東六郷小学校跡地に令和 3 年 3 月に開園予定のコミュニティ広場に植えられることになっています。

写真-15　桜の苗の仮植え

3）東六郷小近接地の花畑づくり

東六郷小近くの県道 54 号線は、本年度、ようやく避難道路としての再整備工事が終わりました。工事が続き花やみどりが少ない状況が続くなか、1 年を通し隣接地で花畑づくりを行いました。

4）被災シンボルツリーを再生したモニュメントの移設

平成 28 年度本助成金を受けて作成したチェーンソーアートによる枯損木再生モニュメントですが、令和 2 年 3 月 3 日に製作場所だった農業園芸センターから被災現地である海岸公園冒険広場に移設・里帰りをしました。

写真-16　シンボルツリー再生モニュメント

■基金への寄付協力団体・個人一覧（累計）について

１．基金への寄付協力団体・個人一覧（累計）

基金への寄付は、以下の通り関係団体や企業、一般からありました。

寄付者	寄附額（円）
愛知名港花き卸事業協同組合	25,026
泉大津花市場祭り実行委員会	80,000
茨城花フエスタ実行委員会	49,163
英国王立園芸協会日本支部	287,670
園芸福祉ふくおかネット	20,000
花き流通情報連絡協議会	326,594
（公財）神奈川県公園協会　神奈川県立都市公園利用者一同	682,000
関東農政局フラワーウォーク実行委員会	1,000
（一財）公園財団	40,000
（公財）国際花と緑の博覧会記念協会、（一社）ﾌﾗﾜｰｿｻｲｴﾃｨｰ	444,678
（株）サカタのタネ	3,280,098
ＪＡあいち知多	207,729
食肉・花き市場まつり実行委員会	86,285
全国花育活動推進協議会	26,908
Ｔ＆Ｙガーデン	518,000
（株）ｔ．ｃ．ｋ．ｗ　（テイーシーケーダブリュ）	10,000
グリーンアドバイザー東京	34,000
都市公園法施行 60 周年等記念事業実行会議	758,925
長野県遊戯業協同組合	523,463
新潟市役所	191,937
西東京　自然を見つめる会	28,192
西日本花き（株）	293,446
（一社）日本花き卸売市場協会	100,000
（公社）日本家庭園芸普及協会	2,175
（一社）日本公園緑地協会	7,027,893
（一社）日本造園建設業協会	4,800,000
（一財）日本造園修景協会	150,000
（一財）日本造園修景協会　広島支部	150,000
（一財）日本花普及ｾﾝﾀｰ 東京ﾌﾗﾜｰﾎﾟｰﾄ・東日本橋花き・世田谷花き	15,150
（一社）日本ハンギングバスケット協会	73,471
花咲く栃木推進協議会	20,500
花とみどりのフェスティバル実行委員会（神奈川県）	30,000
花フエスタ旭川実行委員会	59,000
花巻温泉（株）	10,000

フラワー10Days in 大阪2013実行委員会	2,711
フラワーフェスティバルIN近畿実行委員会	329,253
（一社）プリザーブドフラワー全国協議会	20,000
（一社）プリザーブドフラワー全国協議会千葉支部	6,096
三重県花商組合連合会	150,000
ＮＰＯ法人緑の蝶々	156,782
（株）村山電機商会	50,000
個人（６名）	267,900
合　計　【令和２年１２月３１日時点】	21,336,045

※五十音順

■助成金支援団体一覧(累計)について

１．助成金支援団体一覧（累計）

基金への寄付は、以下の通り支援団体の活動資金となり、被災地での多様な支援活動に役立てられました。

支援先	支援金額(円)
女川桜守りの会 女川町の仮設住宅・店舗周辺等に桜を植栽、管理	335,000
希望の花いわて 3.11 プロジェクト 陸前高田フラワーロード花壇整備、大船渡保育園花育活動等	1,760,000
グリーンアドバイザー九州 熊本地震被災地域である御船町、南阿蘇村等の仮設団地や保育園等での花植え活動	105,500
ＮＰＯ法人 Green Fields 岩手国体復興支援おもてなし花壇整備、岩泉町花壇整備、大槌町仮設住宅でのフラワーアレンジメント教室	1,450,000
桜 on 三陸プロジェクト 牡鹿町大谷川地区の桜の植樹	168,909
サークルはなあそび 保育所等での寄せ植え教室（日本ハンギングバスケット協会福島支部が会員外の協力者と連携）	500,000
ＮＰＯ法人社叢学会 津波被害を受けた大杉神社（岩手県山田町）社殿再建地に、オオヤマザクラを地元住民と一緒に祈念植樹	100,000
仙台ふるさとの杜再生プロジェクト連絡会議 仙台市東部沿岸地域のみどりの再生を目標とした植樹・育樹活動	200,000
ＮＰＯ法人地域の芽生え２１ 多賀城駐屯･七里ガ浜和光幼稚園等 290 ヶ所へ桜の植樹、松島町桜の植樹や大川小学校の花壇整備	347,500
ＮＰＯ法人勿来まちづくりサポートセンター 防災緑地植栽用の苗木とドングリの採取育苗。減災と郷土愛の醸成を目的に、郷土種の広葉樹を選定し地元の森から採取	399,860
(一社)日本造園建設業協会岩手県支部 陸前高田市の「希望の松」の保護活動	2,000,000
(一社)日本造園建設業協会福島県支部 飯舘村の仮設小学校・幼稚園の花壇等の緑化	1,500,000
(一社)日本造園建設業協会宮城県支部 仙台市の仮設住宅に花壇やパーゴラ等を整備	1,300,000
(一社)日本ハンギングバスケット協会（福島支部） 仮設住宅集会所、福島県在住の子供達への花育活動	720,000
花と緑の力で 3.11 プロジェクトみやぎ委員会 仮設住宅や被災地交流施設の植樹活動・花壇整備	5,849,500
花の力プロジェクト 陸前高田市民とボランティアによるオープンガーデン再生事業	1,100,000
東日本に花を咲かせ隊（公園管理運営士会） 国営公園から提供を受けた球根を採収し養生・選別のうえ被災地に送付し、現地での植栽指導・補助等	793,890
ふくしま園芸療法研究会 障がい者福祉施設で花壇管理と箱庭教室、三春町仮設住宅でのフラワーアレンジメントと箱庭教室等	117,329

ふくしま希望の種プロジェクト 仮設住宅や被災により避難している障害者の方々に、みなが集まれる駅前通りのﾌﾟﾗﾝﾀｰへの植栽活動、寄せ植え等の開催	350,000
ふくしまＯＮＥ　ＬＥＡＦ 福島県での個人邸宅オープンガーデン、仮設住宅休憩所や高齢者施設の花壇作り、寄植教室の開催	600,000
ＮＰＯ法人冒険あそび場せんだい・みやぎネットワーク 海岸公園での松の延命措置・植樹活動、被災地小学校での花壇設置と桜の延命措置	644,140
宮古中央通りに緑を復活させる会 宮古市中央通の花かおる散策路の復興整備	750,000
合　計　【令和２年１２月３１日時点】	21,091,628

※五十音順